

Research Fair 2019



「知の祝祭」リサーチ・フェア2019に寄せて

リサーチ・フェア2019へようこそ

「リサーチ・フェア」は今回で22回目を迎えました。開始された当初は研究発表の数も少なく、アットホームな雰囲気の中で行なわれていましたが、近年は総合政策学部の学生をはじめ、他大学の学生諸君や高校生諸君の発表も多く行なわれるようになりました。その形態や内容も、口頭発表やポスター発表、自由形式など多種多様なものとなっています。今回は約130の発表が用意され、9校の高校の参加が予定されています。この「リサーチ・フェア」で発表するために、参加者の皆さんは寝る間を惜しんで資料を集め、分析をし、スライドを作って準備をしてきたことと思います。準備の時間は長かったかもしれませんが、発表の時間は始まってしまうと短いものです。ぜひ皆さんの研究成果が多くの人に伝わるようリラックスして発表に臨んでください。また、発表後に行なわれる議論は皆さんの視野を広げるものだと思います。総合政策学部には様々な分野の先生方がいます。発表を通してきっと今まで気づかなかったような新しい視点に触れることができるでしょう。問題解決は特定の分野の学問や研究だけではできません。総合的な視点から物事を考えていくことが重要なのです。この「リサーチ・フェア」がそのような総合的な気づきを促し、活発な知的交流の場となることを期待しています。

総合政策学部長 古川靖洋

開催：11月15日(金)・16日(土)



主催：関西学院大学 総合政策学部
実施：リサーチ・フェア実行委員会

目次

リサーチ・フェアの紹介

プログラム

プログラム概観

口頭発表(金曜・午前)

口頭発表(金曜・午後)

口頭発表(土曜・午前)

ポスター発表

自由形式

会場案内図

金曜日の要旨

口頭発表(金曜・午前)Ⅱ-101

口頭発表(金曜・午前)Ⅱ-102

口頭発表(金曜・午前)Ⅱ-111

口頭発表(金曜・午前)Ⅱ-201

口頭発表(金曜・午前)Ⅱ-204

ポスター発表

口頭発表(金曜・午後)Ⅱ-101

口頭発表(金曜・午後)Ⅱ-102

口頭発表(金曜・午後)Ⅱ-111

口頭発表(金曜・午後)Ⅱ-201

口頭発表(金曜・午後)Ⅱ-204

自由形式(金曜)

土曜日の要旨

口頭発表(土曜・午前)Ⅱ-101

口頭発表(土曜・午前)Ⅱ-102

口頭発表(土曜・午前)Ⅱ-111

口頭発表(土曜・午前)Ⅱ-201

自由形式(土曜)

リサーチ・フェアの紹介

リサーチ・フェアは、総合政策学部から初めての卒業生を送り出そうという1998年秋に、「卒業生の研究発表の場を設けたい」という故安保則夫先生からの提案で始まりました。なお、安保先生は創設時からこの学部の運営の中心で、初代の学部長の天野明弘先生を支えられた後、第2代学部長を務められましたが、学部長ご退任直後に急逝されました。

安保先生は最初、「ゼミ単位の発表を」とお考えでした。しかし、他の先生方から「うちのゼミではみんな違うことをしている」「どうせやるなら、個人で発表を」という意見が強く、「理系では当たり前のポスター発表や自由形式も採用すればなんとかなる」ととりあえず始まりました。それから、様々な試みを経て、今年で22回を数えます。

その経緯を踏まえて、学生の皆さんにお伝えしたいのは以下の2点です。まず、リサーチ・フェアは教職員と学生のコラボレーションで始まりました。とくに、このイベントを始めた1期生の方々、彼ら／彼女らは“総合政策”というまったく新しい学部を手作りで作り上げていった人たちでしたが、リサーチ・フェアもまたその一つでした。しかし、そろそろ20回にも近づいた昨今、今や、リサーチ・フェアも「当たり前」の世界になってしまい、学生の皆さんからさらなるイノベーションを図ろうとする意欲がやや薄れてきた雰囲気も感じないわけではありません。そのあたり、皆さんの自発的な活動を強く望む次第です。関心がある方は、是非、リサーチ・フェア実行委員会に学生委員としてご参加いただければと思います。

もう一つは、このリサーチ・フェアが様々なネットワークの一つの要(かなめ)になっていることです。例えば、1～2年生は上級生の発表を参考に学科、ゼミを選択する。3～4年生はリサーチとプレゼンテーションの方法を実践して、卒業論文や卒業後の仕事に活かす。さらに卒業生の方々は1年のこの日、キャンパスに戻って後輩(＝皆さん)に自らの仕事を語り、皆さんは先輩の話から自らの進むべき道を選んでいく。ここ数年、高校からの発表者や見学者も増えました。そこに高校、大学、そして社会のつながりを見出す。それが大学が持つ本来の使命の一つ、リベラル・アーツ(教養)の一つの姿だと思えます。

さらに付け加えれば、学生の皆さんに今、本当に望みたいのは“聴く”ことかもしれません。リサーチ・フェアでもプレゼンテーションが中心となり、いきおい、みんな自分の表現に集中する。しかし、(卒業後の社会がまさにそうですが)、みんな一年中“プレゼン”しているわけではありません。

むしろ、相手の話を“聴く”、しかも相手の“真意”を感じ取る、そして議論を重ねて、それまで相手も自分も気づかなかった“新しい世界”に気づく。これがソクラテス以来の対話型ディスカッションの本質です。そして、それができる方こそ、「自分が生きている時代を生き抜く力」を身につけていると言えるでしょう。

そう考えると、リサーチ・フェアこそまさに絶好の機会です。ほかの学生・院生・教員が何を考え、何を伝えたいのか、そしてそれに自分はどのように応えるのか？ さらに議論の中から互いに思っても見なかった答えを探し出せるか？ という意味で、学問の新たな地平＝真のワンダーランドによろこそ！

リサーチ・フェア2019プログラム概観

11月15日(金)	9:00	English Communication Presentation (発表30分弱＋交替)×3クール	
	10:30		
	11:00	口頭発表(金曜・午前) (発表15分＋質疑応答10分＋交替5分)×6クール＋中間休憩10分	自由形式(金曜)
	14:10	ポスター発表ディスカッション・タイム	
	15:10	口頭発表(金曜・午後) (発表15分＋質疑応答10分＋交替5分)×6クール＋中間休憩10分	
	18:20		

11月16日(土)	9:30	口頭発表(土曜・午前) (発表15分＋質疑応答10分＋交替5分)×5クール＋中間休憩10分	自由形式(土曜)
	12:10		
	13:00	学生×OBOG企画(Ⅱ-102)	
	14:30		
	15:00	受賞者発表(Ⅱ-102)	

リサーチ・フェア2019Webページ
<http://www.r-fair.info/rf2019/>



要旨集(含プログラム)
 食堂・売店等案内
 キャンパスマップ
 など

11月21日(木)チャペルアワー:授賞式

口頭発表(金曜・午前)

開始時刻	Ⅱ-101会場		Ⅱ-102会場		Ⅱ-111会場		Ⅱ-201会場		Ⅱ-204会場	
11:00	101 金前 1	学生ボランティアの参加動機による研究 井戸本将幸(総政4年;伊佐田ゼミ)	102 金前 1	入管法改正によって日本社会がどう変化するのか 井手春希(総政3年;長峯ゼミ)他	111 金前 1	「白い巨塔」のレビュータイトルのテキストマイニング 松山大史(総政3年;三道ゼミ)他	201 金前 1	人口減少社会に適した下水道事業を目指して 國本大輔(総政3年;亀田ゼミ)他	204 金前 1	映像資料とユーザインタラクションに基づく事後学習支援方式 柿本穂香(総政M2;角谷ゼミ)
11:30	101 金前 2	The relationship between FDI and ODA 梅谷隼人(総政3年)	102 金前 2	兵庫県をもとに推進する多文化共生 野田風月(総政3年;長峯ゼミ)他	111 金前 2	「白い巨塔」の評価～テキストマイニングから読み取るクチコミサイトでの視聴者の声～ 安部美波(総政3年;三道ゼミ)他	201 金前 2	防災における大学の役割と取り組み 氏家里菜(総政3年;小西ゼミ)	204 金前 2	An Advertising Slogan Generation Method Based on Complaint Data Analysis 楊靚(総政M2;角谷ゼミ)
12:00	101 金前 3	カンボジアの中学校退学者～彼らの現状と求められるサポートを考える～ 堂本茉優子(総政3年;小西ゼミ)	102 金前 3	今の日本に消費税は必要ない？ 小林慶吾(総政3年;坂口ゼミ)他	111 金前 3	攻撃性を抑制する新しいオンラインゲームの提案 飯尾朋美(総政4年;伊佐田ゼミ)	201 金前 3	大気汚染物質が健康に与える影響～NOx-PM法の事例から考える～ 森諒太(総政3年)他	204 金前 3	タイにおけるSufficiency Economy Philosophyに基づいた教育の効果と課題 羽間久美子(総政M2;村田ゼミ)
12:40	101 金前 4	ジェンダーから見る韓国～2050年の女性の生き方を考える～ 風間美月(総政3年;坂口ゼミ)他	102 金前 4	日本における女性労働環境改善のために～国際比較を交えて～ 滝川野乃花(総政2年)他	111 金前 4	現代の医療現場の効率化におけるAIの活用と課題 松下蘭(総政3年;坂口ゼミ)他	201 金前 4	Mechanical solution for climate change 上田奏(京都学園高1年)他	204 金前 4	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRH/R)向上に関する男性参加の検討～フィリピンのパヤタス、カシグラハン地区を事例として～ 北川そら(総政M2)
13:10	101 金前 5	Food inequality and waste that exacerbate hunger Sachiho Onoue(京都学園高1年)他	102 金前 5	USJのV字回復について～森岡氏「イノベーション・フレームワーク」の概要～ 高橋俊輝(総政4年;井垣ゼミ)他	111 金前 5	日本の若者の自己肯定感を高めるために～デンマークの教育を参考にして～ 松本瑞季(総政3年)	201 金前 5	食品ロス削減のための啓発活動は消費者の選択を変えうるのか 福永未希(総政3年;坂口ゼミ)他	204 金前 5	ネパール最貧少数民族チェパン族の生活基盤高揚にむけたアプローチ 岡崎凜(総政M1)
13:40	101 金前 6	Can Ethnic Conflicts be Prevented by Governance of States? – The Case of Singapore and its Possibility of Application – 高橋あきつ(総政3年;村田ゼミ)	102 金前 6	企業が目指すべき最強のチームとは～モチベーションを軸に～ 佐々木綾香(総政3年)他	111 金前 6	フィリピンの教育について～ドロッパウトする可能性がある子どもたちを救う方法～ 上口紗弥(総政3年)他	201 金前 6	Nitrous oxide Momoka Ito(京都学園高1年)他	204 金前 6	開発途上国の農村貧困層における生活習慣病対策の課題～フィリピン ニエヴァ・ビスカヤ州バヨンボン市を事例に～ 高橋知雅(総政M2)

口頭発表(金曜・午後)

開始時刻	Ⅱ-101会場		Ⅱ-102会場		Ⅱ-111会場		Ⅱ-201会場		Ⅱ-204会場	
15:10	101 金後 1	Is the Handwashing class effective in junior high school in Cambodia? 野本友愛(総政3年)	102 金後 1	米中2極化体制の時代は来るのか 森田美里(総政3年;実ゼミ)他	111 金後 1	ビデオ映像の時系列特性と地理的関係性に基づく情報推薦 橋本樹(総政4年;角谷ゼミ)	201 金後 1	インバウンド対策としての古民家ゲストハウス～外国人にもっと利用してもらうためには何が必要なのか～ 前田晴香(総政3年;清水ゼミ)他	204 金後 1	中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究～大鮑島地区における里院の類型～ 高峰(総政M2;山根ゼミ)
15:40	101 金後 2	より豊かな暮らしを目指して～フィリピンのヌエバ・ビスカヤ州の事例を用いて～ 中根杏(総政3年;西野ゼミ)他	102 金後 2	カベは答えじゃない～トランプに打ち勝つ移民政策とは～ 山崎茅乃(総政3年;実ゼミ)他	111 金後 2	料理動画の調理難易度抽出および補助レンビ動画の自動生成 米澤拓也(総政4年;角谷ゼミ)	201 金後 2	地域資源を照らす光～ライトアップによるまちおこし～ 後藤慧(総政3年;清水ゼミ)他	204 金後 2	日銀の物価目標達成に向けて～金融政策のアナウンス分析～ 岡本和己(総政M1)
16:10	101 金後 3	スペースデブリの脅威:GPSが使えない!? 新原有紗(総政3年;園田ゼミ)他	102 金後 3	自由貿易協定の効果～日本とチリのFTAが日本へのワイン輸入に与える影響～ 大山洋子(総政3年;西立野ゼミ)他	111 金後 3	日本の英語教育の発展を目指して 小林俊輝(総政2年)	201 金後 3	The Potentials and Challenges to Solve the Regional Disparity by Students 横山菜乃(総政3年)	204 金後 3	テレビ番組の視聴行動に関する日中比較研究 文凱瑩(総政M2)
16:50	101 金後 4	地方方言の衰退 坂東真衣(総政4年;HEFFERNANゼミ)他	102 金後 4	アメリカはグローバル化で損しているのか～中国側から見る米中貿易摩擦～ 王朝(総政3年;坂口ゼミ)	111 金後 4	「あなたの不満買い取ります」から読み取る女性の声 松本佳依(総政4年;三道ゼミ)	201 金後 4	過疎地域の交通機関の利用促進と未来 綱真輝(総政3年;客野ゼミ)他	204 金後 4	快適な音の研究——デシベルの違いから大阪府内の音を解剖する 馬欣媛(総政M2;今井ゼミ)
17:20	101 金後 5	外国人日本語学習者の方言の使用について 末廣美紗乃(総政3年;HEFFERNANゼミ)他	102 金後 5	喜界島方言の格標示形式に関する研究 藤岡汐音(総政3年;今西ゼミ)他	111 金後 5	「あなたの不満を買い取ります」から読み取る鉄道に関する社会問題～ベイズ学習による投稿者の不明な属性の推定～ 王帥(総政4年;三道ゼミ)	201 金後 5	タピオカの次はベジスイーツ! 鷹取杏実(総政3年;古川ゼミ)他	204 金後 5	震災復興住宅からみる復興25年の今 北原裕也(総政M1)
17:50	101 金後 6	高齢者の尊厳とメンタルケア 木幡詩菜(葺合高2年)	102 金後 6	増える外国人 減る生産年齢人口 高橋潤平(総政3年;長峯ゼミ)他	111 金後 6	地理オブジェクトの複数の役割を考慮した検索システムの提案 大塚公貴(総政4年;角谷ゼミ)	201 金後 6	賞味期限切れ商品の意識改革～ビジネスプランの提唱～ 瀬瀬響七(総政1年;小西ゼミ)他		

口頭発表(土曜・午前)

開始時刻	Ⅱ-101会場		Ⅱ-102会場		Ⅱ-111会場		Ⅱ-201会場		Ⅱ-204会場
9:30	101 土前 1	掲げよう！6色の虹～セクシャル マイノリティと生きる社会～ 今井美結(御影高2年)他	102 土前 1	労働者の労働意欲に企業はどの ように影響を与えることができる か 小山廉太郎(総政4年)	111 土前 1	How to Raise Your Self-Esteem 上原壮司(葺合高1年)他	201 土前 1	働く女性を支える国づくり:北欧 諸国と比較して 武藤安澄(千里国際高3年)	
10:00	101 土前 2	音楽市場の縮小を食い止める方 法とは?～アーティストが持続的 に音楽活動をするために～ 檜尾優樹(総政3年)他	102 土前 2	あおり運転について 笹井康平(岡山龍谷高2年)他	111 土前 2	感性の違いがデザインに与える 影響～台湾と日本の比較研究～ 田中輝一(総政3年;伊佐田ゼミ) 他	201 土前 2	補助金が太陽光パネルの普及に 与える影響 川端壮樹(総政3年;西立野ゼミ) 他	
10:30	101 土前 3	国民間の「違い」はどこから生ま れるのか? 阿部恵也(総政3年;伊佐田ゼミ) 他	102 土前 3	アイデアが生まれやすいオフィス 環境とは 樺山ユリカ(総政3年;古川ゼミ) 他	111 土前 3	Disaster Management in Japan: Making Japan a Safer Place For Everyone 奥山聡一郎(千里国際高3年)	201 土前 3	なくそう！南京町のポイ捨てごみ 施楓花(御影高2年)他	
11:10	101 土前 4	長田区をアートの力で活性化 井上温仁(兵庫高1年)他	102 土前 4	技能実習制度の「見える化」と地 域の役割 吉田実央(葺合高)他	111 土前 4	プログラミング初学者向けの学習 記録アプリケーション開発 小林薫(総政4年;伊佐田ゼミ)	201 土前 4	海の町神戸～水害から身を守る ために～ 市毛鞠花(御影高2年)他	
11:40			102 土前 5	日本の製造業の国際化から見る 理想的な海外進出～TOTO株式 会社の事例と比較～ 新川涼梨(総政3年;安ゼミ)他	111 土前 5	発達障害について 藤田愛梨(岡山龍谷高2年)他	201 土前 5	豊岡Youthプロジェクト～持続可 能な街を目指して～ 全澤敬(総政3年;村田ゼミ)他	

ポスター発表(ディスカッション・タイム:金曜14:10～15:10)

No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル
P01	阿部祐子(総政4年;伊佐田ゼミ)	サブスクリプション型ビジネスの今後の展開	P02	中井美奈子(総政3年;安高ゼミ)他	大学生の結婚に対する意識は？	P03	森秀斗(北摂三田高2年)	高齢者が働きやすい街へ
P04	西山賢一(北摂三田高2年)	日本の経済格差の解決策の提案	P05	岡義人(総政3年;安高ゼミ)他	食材の見た目はフードロスに影響するのか	P06	松浦穂乃実(総政4年;HEFFERNANゼミ)他	関西弁は後世に残っているのか
P07	三橋生(総政3年;安高ゼミ)他	日本文化におけるアニメの有用性とは？～外国人から見る日本アニメの可能性を分析～	P08	吉田由紀子(総政4年;伊佐田ゼミ)	大学生のネットいじめの現状と関与者の心理的傾向について	P09	天井淳稀(北摂三田高2年)	外国人在留者の住みやすいセクションに向けて
P10	内山裕海(総政3年;客野ゼミ)他	KSCにおける防災機能をもつ新たなため池のあり方とは？	P11	藤木見帆(総政3年;山根ゼミ)他	都市問題の解決	P12	吉村佳那子(総政3年;山根ゼミ)他	日本人は家を使い捨てている!?～新築志向の背景にあるもの～
P13	小宮伊織(総政3年;山根ゼミ)他	人々を引き寄せる「路地裏飲食店」の魅力とは	P14	村田涼夏(総政3年;清水ゼミ)他	よりよい駅空間とは	P15	早野恵理子(総政3年;清水ゼミ)他	あなたのマンションは大丈夫？～気になる話題のマンションコミュニティ～
P16	福嶋理紗(総政3年;斉藤ゼミ)他	ハザードマップにおける水害リスクと住民の避難意識についての考察	P17	平井佳奈子(総政3年;客野ゼミ)他	照明による時間感覚の変化	P18	稲谷真里(総政M1)	神戸旧居留地において、エリアとしての認知に貢献している要素は何か？
P19	黄理琦(総政M1)	外国人就労者に対する居住実態と空き家の状況について	P20	中西翼(総政M1)	貧困地区におけるコミュニティ維持型住居について～タイ・バンコク クロントイスラムを対象として～	P21	銭邵賛(総政M1;八木ゼミ)	河川はまちの舞台である～住民と観光客が共演できるかわまちづくりに対する提案～
P22	杉原潤弥(総政M2)	観光地における飲食店の外観デザインに対する評価構造の抽出～広島県尾道市中心市街部を対象として～	P23	岩井拓也(総政M1)	関西弁を含む口語文の形態素解析精度向上手法の研究	P24	大床潤(総政4年;伊佐田ゼミ)	高級ブランド品を好む学生の心理
P25	西堂龍也(総政3年;角谷ゼミ)	地理情報を含むテキストからのデフォルメ地図生成	P26	鍋野佑美(総政3年;角谷ゼミ)	動画に連動した広告推薦	P27	寺道真実(総政3年;角谷ゼミ)	地理的位置付けに基づく地図生成
P28	中島佑馬(総政3年;角谷ゼミ)	コスメにおける比較商品の発見を目的としたレビューの時間変化の分析	P29	池田遥香(総政3年;今井ゼミ)他	沖縄を知る～食と歴史のつながり～	P30	赤尾奈美(総政4年;佐山ゼミ)他	ジオパーク×アートで活性化に貢献？～白山麓実習での実践報告から～
P31	礪野菜々加(総政4年;伊佐田ゼミ)	インフルエンサーマーケティングによるPRの効能について	P32	村上鈴(総政3年;斉藤ゼミ)他	インバウンドのオーバーツーリズムによる問題への対策 in 京都	P33	藤田菜々子(総政3年;斉藤ゼミ)他	地域連携型宿泊施設の地域活性化への貢献についての事例研究
P34	江角優帆(篠山産業高3年)他	地域課題を教育資源として活用する「丹波篠山コンソーシアム」の構築	P35	足立凌(柏原高2年)他	人口減少のメリットを生かすには	P36	西田朱里(柏原高)	丹波市を外国人にとって住みやすい街に
P37	廣岡潤哉(柏原高2年)他	より良い柏原高校に	P38	荒木勇真(柏原高2年)他	丹波三宝を用いた離乳食&ベジタリアン	P39	大垣瑞樹(柏原高2年)他	深めよう！地元愛！
P40	小森菜々香(総政3年;安高ゼミ)他	人生100年時代！！朝食が与える影響は？！	P41	上丞泰輝(総政3年;宮川ゼミ)他	ポイ捨てを見逃すな！～公園でのごみ対策の現状と今後の課題～	P42	土口紗英(北摂三田高2年)	食品ロス削減戦隊ビゴン
P43	永吉暖(北摂三田高)	メイクセラピーによる自己肯定感の上昇	P44	橘佑樹(総政4年;山田ゼミ)	郊外都市における太陽光発電導入の是非～データによる発電量、費用資産～	P45	ハンター山下星(総政3年;客野ゼミ)他	熱流体解析とエネルギー収支分析による持続可能キャンパスモデルの提案
P46	中村ゆらら(京都学園高1年)他	海洋プラスチックによる海洋生物への影響	P47	李拯宇(総政4年;伊佐田ゼミ)	日本における留学生のアルバイト雇用と管理の提案について	P48	鶴原谷瑞樹(総政3年;今井ゼミ)他	「美ら海」の復興を目指して～ジュゴンが暮らせる海とは…～

自由形式(金曜)

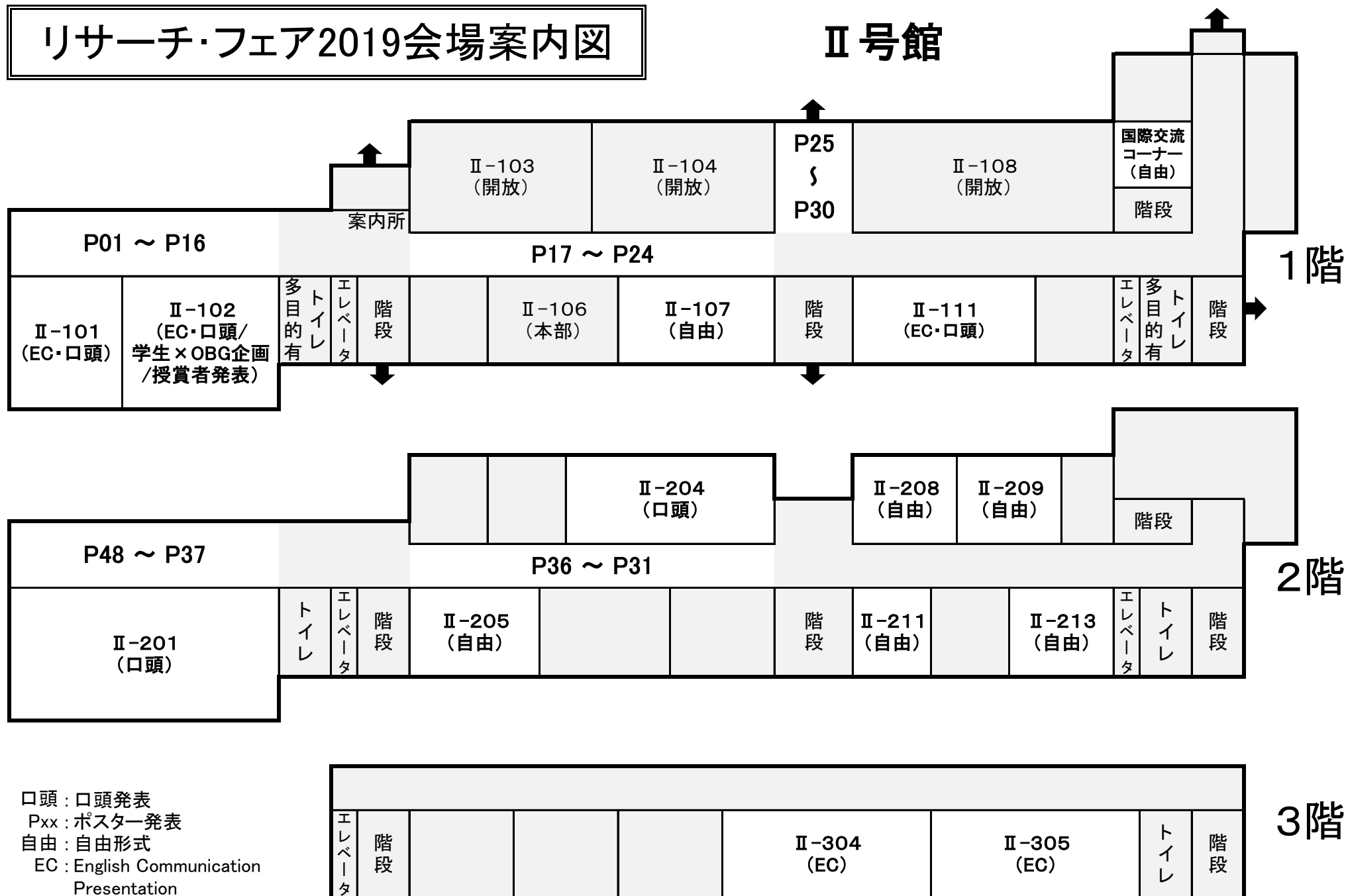
開始時刻	Ⅱ-107	Ⅱ-国際交流 コーナー	Ⅱ-205	Ⅱ-208	Ⅱ-209	Ⅱ-211	Ⅱ-213
11:00		映像で表現 石川泰地（総政2年）他	御ドローン 久木野の 航平デモ （総政3 年；山田 ゼミ）他	ニューカレ ドニア島 （総政3 年；津田 ゼミ）他	消滅危機 山本の研 雅究を通 （総政3 年；今西 ゼミ）他	固定概念展 会慣習 川西麻裕 （総政4 年）他	震災を経験 するの 意味 中川侑海 （総政3 年）他
11:30							
12:00							
12:30							
13:00							
13:30							
14:00	↑ 自然災害が 発生し、ま た場合にお ける避難所 の在り方、 対応とは 藤生さやか （総政3年 ；鬼丸ゼミ ）他						
14:30							
15:00							
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							
17:30							

自由形式(土曜)

開始時刻	Ⅱ-107	Ⅱ-国際交流 コーナー	Ⅱ-205	Ⅱ-208	Ⅱ-209	Ⅱ-211	Ⅱ-213
09:30		映像で表現 （総政2）		年古のに島ニ ；橋かーユ 津玲；番本ー 田也 近当カ ゼ（いレ ミ（島 ド ）政 天ニ 他3 な国ア	年山て島ア消 ；本；のー滅 今雅 での力危 西（研イ機 ゼ（政ブ言 ミ）をる語 ）3 通喜の 他し 界		年中伝未でな震 ；川え経るい災 ；侑験る私を 海意者のかち経 （味に）に験 ）記くしして 政憶震何て 3を災がい
10:00							
10:30							
11:00							
11:30							
12:30							

リサーチ・フェア2019会場案内図

Ⅱ号館



口頭 : 口頭発表
 Pxx : ポスター発表
 自由 : 自由形式
 EC : English Communication
 Presentation

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午前)Ⅱ号館101教室
11:00	学生ボランティアの参加動機による研究 井戸本将幸(総政4年;伊佐田ゼミ)
101 金前 1	現代の日本では少子高齢化、国際化が進行している。それに伴い、ボランティア活動の活動領域は大きく広がりをみせている。近年、日本の教育においても小、中、高等教育現場にもボランティア活動を教育の一環として取り入れられている動きは顕著となっている。また大学においても多くの大学が、ボランティア活動を積極的に支援している。近年のこういった取り組みにより日本の未来を担う若者の積極的なボランティア参加が期待されたが、20代のボランティア参加率は他の年齢と比べ低く、2割に満たない現状となっている。ここで、大学生がどのような動機でボランティア活動に参加しているのかを研究する。
11:30	The relationship between FDI and ODA 梅谷隼人(総政3年)
101 金前 2	This research analyzed the relationship between Official Development Assistance (ODA) and Foreign Direct Investment (FDI). FDI has been playing a crucial role on economic growth in developing countries. And then, there is a probability that, developing infrastructure and Private Public Partnership (PPP), ODA indirectly contributes to economic growth by inducing FDI. Hence, this research will demonstrate the impact of ODA on FDI, using econometric analysis.
12:00	カンボジアの中学校退学者～彼らの現状と求められるサポートを考える～ 堂本茉優子(総政3年;小西ゼミ)
101 金前 3	近年、カンボジアの教育問題の1つとして挙げられる退学者問題。4か月間、カンボジアのNGO団体でインターンを経験した中で、中学校の退学者にインタビューをする機会があった。彼らは、目標を持っているにも関わらず、教育の機会を閉ざされた現状にある。その時の内容や様々な文献を基に、現地でリアルタイムに起こっている事実や原因、そして彼らの目標の実現と、教育機会の平等を目指すべく対策を考察する。
12:40	ジェンダーから見る韓国～2050年の女性の生き方を考える～ 風間美月(総政3年;坂口ゼミ)・宇垣梨花・村上梨奈・頼金育美・寺島梓
101 金前 4	日本と韓国間の対立が深くなり、双方が抱える問題が表面化する今日において、日韓共通の課題としてジェンダーギャップが挙げられる。日本に似た文化的背景を持つ一方、夫婦別姓であったり、女性差別を取り上げた小説が社会現象になるなど、韓国はジェンダーに関して日本と異なる視点とアプローチをもつ。その韓国に焦点を当て、両国のジェンダーの歴史を振り返り、比較しながら、そこから見える韓国の課題、日本が韓国から学べる点を導くことで、これからアジアの女性が行きやすい社会にするために何が必要なのかを考える。
13:10	Food inequality and waste that exacerbate hunger Sachiho Onoue(京都学園高1年)・Hana Kimura・Luna Honda・Yumeno Maeda
101 金前 5	According to Unicef, the population of people who are suffering from hunger is over 800 million people around the world. Many people think that food shortage is the main cause of hunger but there is enough food for people who live on the Earth. Therefore, we thought that the hunger problem might be partly aggravated by the gap between developed and developing countries and food waste. We researched food production and the average annual food consumption in the world including Japan to examine the effects of food waste and hunger based on the differences between consumption and production in both developed and developing countries. After that, we figured out the reasons why each issue has never been solved and we made a hypothesis to guide a solution.
13:40	Can Ethnic Conflicts be Prevented by Governance of States? – The Case of Singapore and its Possibility of Application – 高橋あきつ(総政3年;村田ゼミ)
101 金前 6	The structure of conflicts has been changing; while once its main actor was states, conflicts happening today are often the crashes among ethnic groups that embrace different culture, religious faiths and races. The question here is whether it is possible or not to prevent breaking out this kind of conflicts by the governance of states. As a case, multiculturalism and multiracialism, the policy of Singapore's government which was come up with from the reflection of the leave from the Federation of Malaya, is examined. It is also discussed how much realistic it is to apply this policy to another country.

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午前)Ⅱ号館102教室
11:00	入管法改正によって日本社会がどう変化するのか 井手春希(総政3年;長峯ゼミ)・谷川優奈・田中知樹・近藤寛之
102 金前 1	外国人労働者受け入れの拡大を目的とする入国管理法の改正が2019年の4月に施行された。これにより少子高齢化などに起因する日本の産業の労働人口不足が解消されることが期待されている。しかし、私たちは外国人労働者の受け入れ拡大は、ノウハウなど多くの知見や人材を保有する大企業にとっては歓迎されるものであるかもしれないが、その反面、中小企業などギリギリの状態では経営している場所にはハードルが高いままになっているのではないかと考えた。そこで、中小企業の現状を先行研究などを基にまとめ、公共政策として中小企業にできることを政策提言する。
11:30	兵庫県をもとに推進する多文化共生 野田風月(総政3年;長峯ゼミ)・稲岡広活・高木慶祐・田中由有子・能勢喬女
102 金前 2	今年の4月から改定される出入国管理法に先立ち増えると予想される外国人労働者。入管法改正とは、外国人の出入国の規制を緩和することで外国人労働者を増やし、労働人口不足の解消を目指しています。その人たちと地域住民との間の文化の違いや言語の違いをどう共生していくか。現在の社会の在り方では増える外国人への対応は追いついていないと言われています。そこで私たちは今後の外国人への対応を兵庫県の事例を参考に政策提言をします。
12:00	今の日本に消費税は必要ない? 小林慶吾(総政3年;坂口ゼミ)・西海朋哉・越智帆乃香・社内愛里
102 金前 3	日本経済を再生するための最適なマクロ経済政策として消費税の減税または廃止を提案する。これまで日本では消費増税が議論の的となってきたが、そもそも消費税は必要なのだろうか。消費税は税率が一定であるため逆進性という側面が強く、消費を抑制し実質的に民間最終消費支出に負の影響を与え経済を悪化させるものである。ここでは、インフレ率2%を保つことを日本経済の再生と位置づけ、MMTの理論を踏まえつつ、消費税の廃止に関する根拠や有用性を明らかにし、日本経済の再生を目指す上で消費税を廃止すべきであると認識することを今回の研究における目的とする。
12:40	日本における女性労働環境改善のために～国際比較を交えて～ 滝川野乃花(総政2年)・小郷あかり・吉田圭佑・林美樹
102 金前 4	2018年の日本のジェンダーギャップ指数は世界149か国中110位で、ジェンダー平等の分野で他国から大きく後れを取っている。この要因の一つに日本の女性の経済参加・政治参加の低さが挙げられている。本研究では経済参加に焦点を当て、女性の経済参加の割合が高く、国民が仕事と育児を両立しやすくするための政策を行っている他国との比較をし、これらの国の政策の教訓をどのように日本の政策に活かしていくべきかを提言する。
13:10	USJのV字回復について～森岡氏「イノベーション・フレームワーク」の概要～ 高橋俊輝(総政4年;井垣ゼミ)・生原こころ・岡田愛世・奥知桂・小田三鈴・久世有駿・田下依実梨・永田大河・松田恭輔・村上茉那
102 金前 5	2001年にハリウッド映画のテーマパークとして開業したUSJは、当初1100万人の入場者数があったが、2009年には750万人以下に落ち込んでいた。そこから3年間で業績を奇跡的なV字回復で急上昇させたのが、森岡毅氏である。その時社内の多くの人は「開業の翌年に起こった不祥事のせいで、USJへの信頼が落ちたこと」が入場者数を下げたのだと思っていた。しかし森岡氏は、問題はそこにあるのではなく、何かが潜在需要の大きさを阻害しているのではないかと直感した。現場を歩いて森岡氏が発見したことは・・・。
13:40	企業が目指すべき最強のチームとは～モチベーションを軸に～ 佐々木綾香(総政3年)・小川真名美・栗山芽久・寺西唯子・中田果那・羽田昂志・森部加蓮・大鹿裕亮・吉田有希・大和陽介
102 金前 6	古川ゼミは、毎年神戸新聞主催研究インターンに参加しております。この取り組みは、企業の悩みを各大学のゼミが企業と共に解決策を考えるというものです。今回マッチングさせていただいた株式会社エクスショップ様の人材課題の解決方法について考えました。これから企業がより発展していくために、「最高のチーム」とはどのようなものなのかについて研究を深めました。これから中小企業を経て、大企業を目指すエクスショップ様に合うチーム編成、また組織状態についてご提案させていただきます。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午前)Ⅱ号館111教室
11:00	「白い巨塔」のレビュータイトルのテキストマイニング 松山大史(総政3年; 三道ゼミ)・水野颯・澤田莉奈・橋村歩
111 金前 1	1996年に映画化され、その後も数々のドラマが制作され、最近では、2019年にドラマが放送され、話題を呼んだ「白い巨塔」だが、評価は分かれ、複雑なものになっていた。本研究では、白い巨塔のレビュータイトルに対してテキストマイニングという手法で分析を行い、実際に評価がどのようなものであるのかを明らかにし、レビュータイトルの主張内容を明確かつ簡潔な形で抽出を試みる。本発表では、テキストマイニングの説明、調査データの概観、KH-Coderのコーディングの言及、作成したコーディングルールの紹介、研究結果についての考察を行う。
11:30	「白い巨塔」の評価～テキストマイニングから読み取るクチコミサイトでの視聴者の声～ 安部美波(総政3年; 三道ゼミ)・福山莉央・中川侑海・中元愛梨・伊藤衣理・東江紗希・村上拓哉
111 金前 2	本研究では、岡田准一主演の「白い巨塔」のネット上での視聴者の評価を抽出した。次いで収集したテキストデータに対し、テキストマイニングを適用した。なお、ここではフリーのテキストマイニングソフトであるKH-Coderを使用した。本研究では、ドラマや映画のリメイク作品の評価に過去の作品のイメージがどれほどの影響を与えているのかを明らかにすることを試みた。加えて、KH-Coderの特長の一つであるコーディングの有効性についても検証した。
12:00	攻撃性を抑制する新しいオンラインゲームの提案 飯尾朋美(総政4年; 伊佐田ゼミ)
111 金前 3	今日ではオンラインゲーム(以下OLG)は広く普及しており、世界中にプレイヤーがいる。OLG上ではキャラクターを操って大冒険を繰り広げたり、武器を用いて戦うことができるため、自分が本当にその世界にいるかのように感じることができる。しかし、OLGプレイヤーによる事件の発生により、攻撃的な内容のOLGと攻撃性との関連性も懸念されている。本研究では、OLGの内容やプレイヤーをとりまく状況が攻撃性にどのように影響を与えているかを明らかにし、その結果をもとに攻撃性を抑制するOLGを提案する。
12:40	現代の医療現場の効率化におけるAIの活用と課題 松下蘭(総政3年; 坂口ゼミ)・林春佳
111 金前 4	患者が医療機関を選択し診察を受けるまでにはいくつかのプロセスがある。AIを活用することで、医療事務の効率化と緊急時の迅速な対応ができるのではないかと私たちは考える。そこで、今回は予約システムと問診票に注目し、患者情報の一元化、そして病院間の情報の共有化を目指す。現在開発されている医療システムを基に、実際に関西学院大学の総合支援センターのカウンセリングの際に使う問診票のチャットボットの仕様を設計しプロトタイプの開発に取り組む。これらの調査を通してAIによる効率化と緊急時対応の方法を提案する。
13:10	日本の若者の自己肯定感を高めるために～デンマークの教育を参考にして～ 松本瑞季(総政3年)
111 金前 5	日本では若者の自己肯定感の低さが問題として扱われている。自信の低さによって社会にうまくなじめず、ひきこもる若者も多い。私はこの自己肯定感の低さを単に日本の昔からの慣習として捉えるのではなく、幼少期から人格形成に関わってくる教育に焦点を当てて原因を考えた。そしてその仮説として対話の少なさが原因ではないかと思い、国全体で対話が重んじられるデンマークと比較しようと考えた。現地の教育機関の訪問で実際に見た教育現場などを参考に、日本の若者の自己肯定感を高めるためにどのように働きかけたらよいのか考察した。
13:40	フィリピンの教育について～ドロップアウトする可能性がある子どもたちを救う方法～ 上口紗弥(総政3年)・浦野羽菜・西田千尋
111 金前 6	フィリピンの小学校のドロップアウト率は約25%で、これは世界的に高い。その原因として、教師の質、公用語の英語についていけない、等の問題が挙げられる。1クラスあたりの人数が多く、先生の負担が大きい。それによって、ついていけない子がいるという弊害を生んでいる。国際機関は学校に行けなくなった子ども等に対してボランティアをしているが、私たちは学校に在籍しているが勉強についていけなくなった子供達を対象にどんなサポートをできるかを考察してみた。現在日本ではサポートが充実しているため、その事例等を踏まえてフィリピンでも子供が授業についてこられるような対策を考察していく。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午前)Ⅱ号館201教室
11:00	人口減少社会に適した下水道事業を目指して 國本大輔(総政3年; 亀田ゼミ)・梅田佳奈・甘庶晃平・桑原彩歌・近藤愛乃
201 金前 1	下水道事業は、浸水防除・公衆衛生の向上・公共用水域の水質保全を主な目的として事業が実施されており、公共性の高い市民生活に不可欠な事業であり、下水道施設のストック量は管路施設が約47万km、下水処理場が約2200箇所存在する(平成29年度末)。そして今後これらの施設が急速に老朽化することが見込まれており、施設維持費用や更新費用の増大が予想されている。一方で人口減少が進み、使用料収入で経費をまかなえている地方自治体は全体の約22%と、非常に厳しい状況にある。そこで本稿では、市民生活に必要な不可欠である下水道事業の持続可能性が脅かされていることを問題意識とし、「広域化・共同化」に焦点をあて研究を進める。
11:30	防災における大学の役割と取り組み 氏家里菜(総政3年; 小西ゼミ)
201 金前 2	リサーチの方法としては先行研究を参考とする他、本学の防災に関する取り組みを参考とする。発表内容としては、変更する可能性はあるが、災害がおきた際の市区町村単位での課題やニーズをとらえたうえで、それに対して大学がどのような対策を行うことができるのか、提案する。また、地域住民や学生が、大学に対してどのようなことを期待しているのかについて考慮したうえで、提案を行う。
12:00	大気汚染物質が健康に与える影響～NOx-PM法の事例から考える～ 森諒太(総政3年)・濱井風華・近森歌音・下村裕摩・吉永響・笠間有希
201 金前 3	本研究は大気汚染物質の削減に向けて制定されたNOx-PM法と乳幼児の健康との関係性を調査し、有効な政策の検証を行うものである。近年、自動車の利用の増加による排気ガスや工場からの排煙による大気汚染物質の排出量は年々増加している。大気汚染物質の影響を成人は受けにくい、耐性が不十分である乳幼児は大きな影響を受けると考えられる。そこで我々はNOx-PM法が導入されている地域と導入されていない地域に分け、大気汚染物質の濃度と乳幼児死亡率との関係性を分析した。
12:40	Mechanical solution for climate change 上田奏(京都学園高1年)・小林理華子・谷本萌春姫・吉田萌恵
201 金前 4	In this presentation, we will talk about how agriculture affects global warming, and then how we can decrease the emissions of methane from rice paddies while maintaining agricultural output. Methane is discharged from soil when rice is produced. Therefore, we decided to focus on a large rice paddy area, the Mekong Delta, which produces more than 50 percent of rice in Vietnam. We will suggest a method that decreases methane emissions and increases production and therefore farmer's income, by distributing agricultural machinery in the Mekong Delta. Generally, many people may think that to do this we would cooperate with a public organization such as JICA, however we feel that affiliating with a private enterprise is more effective.
13:10	食品ロス削減のための啓発活動は消費者の選択を変えうるのか 福永未希(総政3年; 坂口ゼミ)・西村光
201 金前 5	食品廃棄物量の多さは環境面・経済面・社会面において問題であり、先進国における食品ロスの原因の特徴として安全志向の高さが挙げられる。現在、行政・企業において廃棄量削減のために取り組みが行われているが、更なる効果を得るためには消費者が食品ロスに対してより強い関心を持ち、購買行動に繋げることが必要である。発表では小売業における食品廃棄物に注目し、先行研究を踏まえたうえで消費者にアンケート調査を実施する。その結果からどのような啓発に消費者行動を変えうる可能性があるのか、小売業においてはどのような啓発活動を強めていくべきかについて示す。
13:40	Nitrous oxide Momoka Ito(京都学園高1年)・Yusei Katou・Akirako Koyanagi・Anju Nakazima
201 金前 6	Didn't you feel hotter this summer than before? Recently, around the world there are a lot of instances of abnormal weather affecting the lives of millions of people. As you know, the target of SDG13 is to take urgent action to combat climate change and its impacts. We think agriculture is the industry that is influenced by climate change the most, because the harvest can change a lot due to the climate. Of greenhouse gases, the biggest proportion of emissions from agriculture is nitrous oxide. This gaseous body is discharged by nitrogen fertilizer and accounts for 60 percent of global nitrous oxide emissions. Therefore, because of the utilization of fertilizer, global warming is proceeding faster. We researched the effect of agriculture on climate change that many people are not aware of. We also examined the effect of climate change on agriculture, too. We would like to inform people of this mutual relationship. We also want to share methods of reducing the amount of nitrous oxide emitted by agriculture.

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午前)Ⅱ号館204教室
11:00	映像資料とユーザインタラクションに基づく事後学習支援方式 柿本穂香(総政M2;角谷ゼミ)
204 金前 1	近年、デジタルアーカイブの充実やバーチャルミュージアムの提供開始に伴い、博物館の展示物について取得可能な情報が多様化している。特に教育分野においては、これらの情報を基に、展示物を実際に見て考える、インタラクティブな現地学習が重視されている。しかし、既存の学習支援システムでは、現地学習で得られた興味や関心を深め、その後のより高度な学習へつなげるための支援が不十分である。そこで本研究では、学習者のインタラクションの分析と映像資料の分析に基づき、事後学習を支援する方式の提案を行う。
11:30	An Advertising Slogan Generation Method Based on Complaint Data Analysis 楊靚(総政M2;角谷ゼミ)
204 金前 2	キャッチコピーはブランド構築や商品の販売促進の文章である。しかし、キャッチコピーに含まれている誇張な言葉で現実商品とのギャップが生まれ、消費者が不満を感じる場合がある。また、様々な不満を持つ個々のユーザの心を動かすようなキャッチコピーの作成は困難である。本研究は独自に収集した過去の広告文及び不満買取センターで投稿されるネガティブなレビュー情報を用いて、キャッチコピーの自動生成を行う。同時に、ユーザの不満を解消できるようなキャッチコピーを考慮に入れることにより、現実的に利用可能なシステムを目指す。
12:00	タイにおけるSufficiency Economy Philosophyに基づいた教育の効果と課題 羽間久美子(総政M2;村田ゼミ)
204 金前 3	現在消費社会が蔓延しているグローバル社会において、タイではSufficiency Economy Philosophy(足るを知る経済)に基づいた政策が行われている。本報告では実際にタイ北部、東北部、中部、南部それぞれ出身のSufficiency-Based Schoolの卒業生を対象にアンケート調査とインタビュー調査を行い、そこから得られた彼らの持続可能な社会に対する意識や、今後のタイの在り方に対する未来観についての分析結果を提示する。また、これらの分析結果から、Sufficiency-Based Schoolの教育は今後のタイ社会にどのようなインパクトや変化をもたらすのか、持続可能な社会の実現に向けたアプローチを提示する。
12:40	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRH/R)向上に関する男性参加の検討～フィリピンのパヤタス、カシグラハン地区を事例として～ 北川そら(総政M2)
204 金前 4	セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRH/R)とは、性と生殖に関する身体的、精神的、社会的健康と、それを享受する権利を指す。特に途上国ではSRH/Rの問題によって女性の命と人権が脅かされており、この解決のためには、ジェンダー平等に取り組むこと、男性がプロジェクトに関わるのが重要であると国際社会でも強調されている。本研究では、フィリピンのパヤタス、カシグラハン地区での調査から、対象地区に住む人々のSRH/Rに関する知識や意識、行動を分析し、SRH/R向上とジェンダー平等のための男性を巻き込んだ政策を検討する。
13:10	ネパール最貧少数民族チェパン族の生活基盤高揚にむけたアプローチ 岡崎凜(総政M1)
204 金前 5	ネパールの最貧困民族であるチェパン族の現状を分析し、チェパン族の女性がマイクロファイナンスを活用したプラスチックゴミのリサイクル事業を通して持続可能な開発を行うことで生活基盤の高揚を目指す政策を考える。さらにリサイクル事業において民間企業や国際機関との連携を図ることでSDGs17パートナーシップへの貢献を目指す。
13:40	開発途上国の農村貧困層における生活習慣病対策の課題～フィリピンヌエヴァ・ビスカヤ州バヨンボン市を事例に～ 高橋知雅(総政M2)
204 金前 6	開発途上国ではグローバル化や急速な都市化を背景に生活習慣病を代表とする非感染症が増加している。途上国における生活習慣病の増加は様々な問題をもたらし得るが、特に貧困の悪化は重大な課題である。また近年の国際保健分野ではユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)が注目を集めており、保健医療と貧困を考える上で重要な項目となっている。このような背景から、フィリピンのヌエヴァ・ビスカヤ州バヨンボン市を事例に調査を実施し、途上国の農村貧困層における生活習慣病の状況と対策に向けての課題をUHCの視点を基に明らかにする。

No.	ポスター発表(ディスカッション・タイム:金曜14:10~15:10)
P01	サブスクリプション型ビジネスの今後の展開 阿部祐子(総政4年;伊佐田ゼミ) 現代社会では、様々なビジネスモデルが誕生している。その中でもサブスクリプション型ビジネスが近年急速に増え続けている。サブスクリプション方式のビジネスは、利用者はモノを買い取るのではなく、モノの利用権を借りて利用した期間に応じて料金を支払う方式のことを指している。新聞の購読や、コンピュータのソフトウェアの利用形態として採用されることも多い。新たなサブスクリプション型ビジネスに共通する要点は何なのか、またどのような業界で成功するのか、しないのか、それを踏まえてこれからどのように展開していくのかを研究する。
P02	大学生の結婚に対する意識は？ 中井美奈子(総政3年;安高ゼミ)・馬場郁也・岡田直記・杉山友基 我々は少子高齢化について研究しています。研究を進めるにあたり、日本の晩婚化や未婚化、高齢出産などが進んでいるという現状が目立ちました。我々は、社会人の経済的状況や環境、意識などがこの現状に影響を与えているだけでなく、若者の結婚や恋愛に対する意識の低さや高齢出産などに対する知識のなさも関係しているのではないかと、という仮説を立てました。よって、本調査ではまだ社会に出ていない兵庫県の大学生を対象に結婚や恋愛、出産に対する意識調査をしました。
P03	高齢者が働きやすい街へ 森秀斗(北摂三田高2年) 現在の日本では少子高齢化が非常に進んでいる。これで問題となるのは年金問題だと思うが、これを解消するために高齢者にできるだけ働いてもらうことが重要だと考えた。調査をしていく中で多くの高齢者は働きたいと思っているのに、働けていないことがわかった。この矛盾を解消するために高齢者雇用に力をいれている会社にインタビュー・アンケートを行いたいと考えている。そして、この調査の結果をもとに私が住んでいる三田市でも何か生かせることがないかを考え、高齢者が働きやすい街にしていきたいと考える。
P04	日本の経済格差の解決策の提案 西山賢一(北摂三田高2年) 皆さんは我が国が先進国よりも貧困であることを知っていますか。私はこの日本の現状に対して危機感を覚えたので「格差」についての研究を始めました。そして、「経済格差は自己責任であるか」という問題提起にたどり着きました。社会で自分の持っている能力や学歴で競争を行う以前にある教育の場で行われる「公正な競争」では、自己責任を問うことができないのです。そこで、「公正な競争」を実現するために「公教育の構造改革」を提案します。私の今のところの構想は、教師を通常授業を行うグループと補習を行うグループで分けることです。このような構造改革が今の日本には必要だとおもいます。
P05	食材の見た目はフードロスに影響するのか 岡義人(総政3年;安高ゼミ)・鈴木沙菜・豊国美波・宮城かれん 昨今、世界中では飢餓問題が大きな社会問題として挙げられている。特に先進国のフードロスは多くの人々を悩ましているのである。そこで野菜を出荷する際に生じるロスに関して注目をする。普段、何気なくスーパーで見かける形や色の整った多くの野菜たちは生産者側の基準を満たしたモノたちなのである。一方、我々消費者としてはさほど野菜の形や色という点は気にせず値段や安全性を重視する傾向にある。よって、生産者と消費者とでは野菜に対しての見かけに違いがありそれを明らかにする事でフードロスに繋がると考える。
P06	関西弁は後世に残っているのか 松浦穂乃実(総政4年;HEFFERNANゼミ)・菅沼匠伊・山下竣平・山田悠河 参考文献によると、標準語の使用率は上がっており地方方言は衰退しつつある。その中で関西弁は後世に残っていくのかという疑問を抱いた。関西弁が後世に残っていくのか研究するために関西弁に対するイメージ調査を行った。この調査から関西弁を話さない人たちは関西弁にマイナスのイメージを持っている人が多くいるが、実際関西弁を話す人たちはプラスのイメージを持つ人が半数以上であることがわかる。関西の好きなところを聞いた結果人柄や関西弁に回答する人がほとんどだった。以上のことより、関西弁を後世に残していきたい人が多いのではないかと考える。

P07	日本文化におけるアニメの有用性とは？～外国人から見る日本アニメの可能性を分析～ 三橋生(総政3年;安高ゼミ)・明石早央里・宮前琴音・柏原つくし 近年訪日外国人者数が急激に増加している。グローバル化が進んでいく中で、文化や言語の違いによって、日本人と訪日外国人の摩擦が生じることがある。本研究では、訪日外国人が日本の文化であるアニメに興味を持っていることに着目し、日本語学習者とアニメ・マンガについて調査した広島大学での研究を踏まえて、20代を中心とした訪日外国人を対象にアンケートを実施し、日本のアニメを通して日本の文化が学べるかどうかを調査した。その調査結果を用いて、日本のアニメは外国人が日本の文化を学ぶ際の大切な手段の一つとなることを考察する。
P08	大学生のネットいじめの現状と関与者の心理的傾向について 吉田由紀子(総政4年;伊佐田ゼミ) 「ネットいじめ」は小中高生を中心として研究が進められてきた。しかし、今までの研究で、大学生のおよそ2割がネット利用中に何らかのトラブルを経験しており、中でもネット上の誹謗中傷が顕著であることが報告されている(岡本ら, 2014)。このように大学生においても確かにネットいじめが一定の割合で存在するにもかかわらず、大学生を対象として、大学時代のいじめについて調査を行なった研究はまだ多くない。本研究では、大学生のネットいじめの現状と関与者の心理的傾向について明らかにするために、大学生を対象にインターネットを用いたアンケート調査を実施した。心理尺度の中でも、本研究では「Buss-Perry攻撃性質問紙」「友人関係測定尺度」「大学生生活に対する不安尺度」の3つの心理尺度を用いて分析を行った。
P09	外国人在留者の住みやすいセクションに向けて 天井淳稀(北摂三田高2年) 年々外国人在留者は増加傾向にあります。それに反し、言語の壁により、コミュニケーションが取りにくいをはじめ、生活環境は整備されていません。これは、地震などの災害が発生した場合に、多くの支障をきたす可能性があります。頼みの綱である災害マニュアルも、現存のものでは、解決することが難しいです。なので、それを解決するためのアプローチ法として、やさしい日本語という簡単な日本語の指標が適しているのではないかと、という仮説を立てました。様々な機関の協力のもと、やさしい日本語を使った災害マニュアルを作成し、実際に外国人に読んでもらい、この仮説を検証する予定です。
P10	KSCにおける防災機能をもつ新たなため池のあり方とは？ 内山裕海(総政3年;客野ゼミ)・森田詩織・村上文太 兵庫県は全国で1番ため池が多く三田市はもちろん神戸三田キャンパスにもため池が多く存在する。ため池は農業用水源としての利用以外に生態系保全や洪水緩和、農耕文化等の生成、親水空間や景観形成、気候調整につながるといった利点がある一方、近年は農業の衰退等による管理不備により、ため池の環境悪化・消滅が進んでいる。私たちはKSCのため池を活用し三田市において防災機能をもつ新たなため池のモデルプランを提案するべくため池の立地とその環境にまつわる基礎事項の調査を実施する。まず、現状把握として三田市のため池の減少傾向をGISを用い比較分析し、その要因を統計手法により明らかにする。さらに、現地で植生調査や、堤防の形状や状態の調査を実施し、その耐震性能の有無を調査する。KSC内のため池においても同様に行う。
P11	都市問題の解決 藤木見帆(総政3年;山根ゼミ)・天白風花・禹廷炫 近年の日本において地方では過疎化、都市部では人口集中が問題視されている。そのうち、我々は都市部で起こっている問題に視点を置き、解決の糸口を見つける。実際に人口集中に対する策が進められているが、交通渋滞の緩和や都市部で災害が起こった際の対策は未だに深刻な問題とされている。近年ICTを導入した事業が実現されている。そこで、今使われている新技術について研究し、都市財源をより効率的に活用するため、情報通信技術を都市空間に適用することを目指している。それによって、人々の生活の価値を高め、より豊かな暮らしを図る。
P12	日本人は家を使い捨てている!?～新築志向の背景にあるもの～ 吉村佳那子(総政3年;山根ゼミ)・山本優佳・下村佳穂・前田野枝 空襲などの被害を受けた戦後の日本では住宅不足により大量の住宅供給が求められた。その頃から新築を買うことがステータスだという風潮が見られるようになってきた。一方欧米諸国では古い住宅をリノベーションしながら住み続け、古い建物にこそ価値を見出す傾向がある。なぜ日本人が新築を好むのか、新築の魅力と日本人の心理に及ぼす要因を明らかにし、欧米と日本のリノベーション住宅を研究し、日本での住まいのあり方を見直す。さらに近年日本で深刻化している空き家問題解決にもつながる新たなリノベーション住宅を提案する。
P13	人々を引き寄せる「路地裏飲食店」の魅力とは 小宮伊織(総政3年;山根ゼミ)・吉川栞名・堀江萌々花・西澤菜穂 近年、計画的に開発された商業施設に比べ活気溢れる「路地裏飲食店」が再評価され始めている。人はなぜ「路地裏飲食店」に魅力を感じるのだろうか。多くの人々は「路地裏飲食店」が持つレトロな雰囲気や怪しさなど非日常的な感覚を得ることができる。しかし、「路地裏飲食店」にはそうした表面的特徴だけでなく、都市的あるいは建築的に特徴的な空間構成が存在すると考えられる。「路地裏飲食店」では場所の固有性により異なる特徴を示す部分、共通する特徴を示す部分が存在する。本研究では複数の京阪神地区に存在する「路地裏飲食店」を対象に実地調査を行い相対的に分析する。

P14	よりよい駅空間とは 村田涼夏(総政3年;清水ゼミ)・石田沙都・小金玲文 近年、駅空間は移動手段だけではなく、賑わいや滞留の場としての機能が注目されている。また、ある地域を訪れる手段の一つが電車であり、駅空間は地域の顔になりうる。様々な人が利用する駅空間は、多くの人にとって使いやすくあるべきである。また、駅自体がその地域の顔としての工夫がなされていれば、そこからその地域の魅力を感じることができる。本研究では、様々な駅舎から集めた事例、様々な関係主体へのインタビューやアンケートをもとに、よりよい駅空間を追求していく。そして、私たち関学生にとって身近な駅である新三田駅に当てはめ、よりよい駅空間を提案していく。
P15	あなたのマンションは大丈夫?～気になる話題のマンションコミュニティ～ 早野恵理子(総政3年;清水ゼミ)・進藤風子・渡辺さち 近年、急速な技術発展に伴い、より便利な暮らしが可能になった。その一方で、人々を取り巻く交流関係が希薄化しているように思われる。特に最近増加傾向にあるマンションでは自治会の加入率の低下、住民同士の交流機会の減少などが問題視されている。そこで本研究は、マンション内でのコミュニティに着目し、現状把握するための本キャンパスがある三田市のマンションを対象にアンケート調査を実施した。その結果をもとに、現在の問題点から今後のコミュニティの在り方を提案する。
P16	ハザードマップにおける水害リスクと住民の避難意識についての考察 福嶋理紗(総政3年;齊藤ゼミ)・高瀬迅人・橋本千尋・加村陽子 無情にも、災害とは私たちの身に突然降りかかる。しかし昨今の科学技術の進歩により、人類は災害発生を事前に予測し、対応することが可能になりつつある。そこで、減災の政策として考えられているハザードマップに視点を置き、ハザードマップの知識によって、住民の避難意識に差は生じるのか、調査することに決めた。その調査地として、2014年に記録的豪雨を経験した丹波市市島町を設定し、その地域の河川洪水ハザードマップをもとに、考察していく。
P17	照明による時間感覚の変化 平井佳奈子(総政3年;客野ゼミ)・白石絵莉・野村萌絵 日常生活において、時間の長さを感じる際、少し異なって感じる場合がある。例えば、楽しいと感じるときには短く、退屈だと感じるときは長く感じるという経験を、誰もがしたことがあるだろう。時間の感覚は、主に、心理状態・年齢・時刻などから影響を受けると明らかにされており、先行研究も多くある。では、空間は時間感覚に対してどのような影響を与えるのか。私たちは空間要素の中でも、照明が時間感覚にどのような影響を与えるのかについて心理実験を通して明らかにする。
P18	神戸旧居留地において、エリアとしての認知に貢献している要素は何か? 稲谷真里(総政M1) 現在、神戸旧居留地には、歴史的建物と新しい建物が共存しているが、その街並みからエリアとしてのまとまりを感じることができる。エリアとしての認知を可能としている要素は何か。建築物の形態(壁面位置、軒高、隣棟間隔、色彩、スケール、テクスチャ、デザイン、プロポーション、モジュール、ピッチ等)から、街並みに特色や統一感をもたらす共通点・関係性を見出す。最終的に、デザインとして破綻している部分の修正や、エリアの立体的活用を視野に入れ、旧居留地の持続可能な魅力の維持向上につながる提案を行う。
P19	外国人就労者に対する居住実態と空き家の状況について 黄理琦(総政M1) 本研究では、二点を目的とする。まず、一点目として、これから来日する外国人就労者の居住実態と日本の空き家の現状を分析し、外国人就労者が日本での新たな住み方を発見し、そして外国人労働者が空き家を利用することによって、現在注目されている空き家問題を緩和する事例の実態を明らかにする。次に、二点目として、仕事や暮らし、地域での交流などを通じて外国人とコミュニケーションする機会をさらに増やす中で、異文化への理解と尊重を深め、多様な人々が共生し、支え合うコミュニティを形成することが可能な空間を提案することを目的とする。
P20	貧困地区におけるコミュニティ維持型住居について～タイ・バンコク クロントイスラムを対象として～ 中西翼(総政M1) 各国では都市政策レベル、住宅政策レベルはもちろん、それぞれのレベルにおいて貧困地区への対策を進めているが、さらにボトムアップ形式のプランニングおよびデザインなどの住居レベルでの住民視点の配慮が必要であると考えている。このような背景のもと、本研究では東南アジア諸国の首都圏で、伝統様式を考慮したパッシブデザインや経済性を重視した持続可能な住居空間を提案することによって、一般市街地に住む人々と貧困地区の格差を縮め、住民自らが改善のオーナーシップを持ち、一時的な住宅の改良だけではない住居改善により都市の生活水準を改善する方法を明らかにしていくことを目的とする。

P21	河川はまちの舞台である～住民と観光客が共演できるかわまちづくりに対する提案～ 銭邵賛(総政M1;八木ゼミ) 河川は産業化の影響で日常生活から離れた一方で、近年その環境的、文化的価値が見直されている。特に日本では、河川法の改正に基づいて、市町村や河川管理者、民間事業者と地域住民の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指すかわまちづくりも実施されている。本研究では、日本の観光化したかわまちづくりの事例を分析する上で、体系的な角度から現状を把握し、そして住民と観光客が共演できる河川空間を提案する。
P22	観光地における飲食店の外観デザインに対する評価構造の抽出～広島県尾道市中心市街部を対象として～ 杉原潤弥(総政M2) 本研究では、広島県尾道市の飲食店の外観が観光客からどのように評価されているかについての評価構造を抽出・比較し、観光地に求められる飲食店デザインのあり方を考察することを目的とする。よって、対象地域は観光客が多く訪れる尾道市中心市街部である。実際の調査では、評価グリッド法を用いて尾道市中心市外部における飲食店の外観評価構造を抽出し、定性的な評価構造モデルを作成することを目指す。手順としては、飲食店の外観写真をカテゴリごとに親近度行列を利用したクラスター分析によって分類しその後評価グリッド法を用いたヒアリングによって調査を行う。
P23	関西弁を含む口語文の形態素解析精度向上手法の研究 岩井拓也(総政M1) 本研究では関西弁を含む口語文の形態素解析の精度向上を目的とした手法を開発する。形態素解析は文を意味を持つ最小単位である形態素に分割し、その形態素に品詞等のタグを付ける手法である。この形態素解析は検索エンジンなどの人間が日常的に利用する自然言語を処理するアプリケーションなどでは欠かせない手法である。しかし、関西弁のような方言が文に混じると形態素解析の精度が著しく低下する問題がある。そこで本研究では、この問題を解決するために二つの手法を検討する。一つ目の手法は関西弁に対応した辞書を作成し、誤り検出と訂正を行う。そして二つ目の手法では深層学習を用いて誤り検出と訂正を行う手法である。
P24	高級ブランド品を好む学生の心理 大床潤(総政4年;伊佐田ゼミ) 街中を歩いていると、高級ファッションブランドのバッグや財布を持つ人をよく目にする。マイボイスコムが高級ブランドに関するアンケートを行ったところ、全体の5割強の人々が高級ブランド品を所持していると答えた。不況が続く中でも日本人のブランド志向は高まっている。また、最近では大人だけでなく、中高生や大学生にもブランド志向が浸透してきている。いったいなぜ高級ブランド品を購入するのか。今回は大学生に焦点を当てて高級ブランド品を購入する心理を調査していく。また、近年様々なブランドのフェイク品が作られ、市場に出回っている。そこで、フェイク品を購入する心理についても同様に調査していく。
P25	地理情報を含むテキストからのデフォルメ地図生成 西堂龍也(総政3年;角谷ゼミ) ユーザが観光等での目的地へのアクセス方法を調べるために、Webページを閲覧するとき地理オブジェクトのホームページには「〇〇駅から徒歩10分」などといったテキストでのルート案内がある。しかし、検索するユーザはテキストだけでは、目的地までの正確なルートを把握することができない。そこで、本研究ではテキスト情報を用いて地図上に配置するといった手法を用いて、テキストから目的地までのデフォルメ地図を作成することにより、この問題を解消する。
P26	動画に連動した広告推薦 鍋野佑美(総政3年;角谷ゼミ) 近年、行動ターゲティング広告などにおいて、ユーザの閲覧履歴から個人の興味を分析し、効果的な広告を配信する手法が用いられている。一方、動画共有サービスにおいて表示される広告の中には、ユーザの視聴中の動画の内容が考慮されていない広告動画が多く見受けられ、ユーザが広告動画をスキップするなど、十分な広告効果が得られない。そこで本研究では、動画共有サイトのコメント機能から抽出したコメントデータの分析に基づき、動画ごとに視聴者の求めるであろうトピックを判定し、ユーザが関心のある広告の推薦を可能とする手法を提案する。
P27	地理的位置付けに基づく地図生成 寺道真実(総政3年;角谷ゼミ) ユーザーが目的地の場所を検索すると、目的地のホームページ上などでその場所を示す略地図が表示される。ただ、その略地図は同業種の店を排除しているなど何らかの意図が入っており、一般ユーザーにとっては不都合な場合が考えられる。例えば、とある店舗に行きたいユーザーが場所を検索すると、同業店舗を除いた略地図が表示され、それに従うと結果的に遠回りすることになるなどの問題が挙げられる。そこで、本研究では地理オブジェクトの地理的な位置付けに基づいた地図を生成することにより、その問題を解消する手法を提案する。

P28	コスメにおける比較商品の発見を目的としたレビューの時間変化の分析 中島佑馬(総政3年;角谷ゼミ) 近年、@cosme やコスメニスト、MAQUIAといった、購入者による商品へのレビューが閲覧できるレビューサイトが多く運営されている。このようなサイトでは、同一ジャンルの複数の商品に対し、レビューを元にして比較検討を行うが、大量にある商品から比較する商品をサイト利用者が選択するのは困難である。我々は、同一商品でありながら、レビューにおける商品への評価が時間と共に変化する可能性に着目し、このような変化が比較すべき商品の存在を示唆しているのではないかと考えた。本研究では、レビューに含まれるキーワードの中から、時間軸における発現度合いに有意な差が現れるものを抽出し、そのキーワードの分析を行うことで、比較対象となる商品の発見を目的としている。
P29	沖縄を知る～食と歴史のつながり～ 池田遥香(総政3年;今井ゼミ)・三宅梓・李彤琳・笹川幸奈・萬静傑 沖縄県の沖縄料理は様々な文化(主にアジア)から融合され、日本の本州と違い、多様な料理様式がある。地理位置から見ると、中国と日本の真ん中に位置している沖縄はこの二つの国から一番影響を受けていると考えられる。特に琉球国時代の沖縄は中国の福建省との長い歴史がある貿易の取引、中国の付属国として品物を中国の皇帝に提供するという歴史から、沖縄料理の歴史を研究テーマとして挙げた。調査場所は中国の福建省の福州市にある琉球館と沖縄県立博物館で、中国(福建省)と琉球の貿易歴史に関する史料、大和文化が琉球への影響は調査のメインである。
P30	ジオパーク×アートで活性化に貢献?～白山麓実習での実践報告から～ 赤尾奈美(総政4年;佐山ゼミ)・金可那・太治あゆみ・佐野千紘(総政3年)・富高遼太・永田良樹 石川県白山市下吉野地区を拠点に行う「白山麓実習」の実践例から、地域の活性化に取り組む。また、「産(企業)官(行政)民(住民)学(学生)」の連携により、多面的な成果を追求する。20年前から止まっていた水車小屋を3年前の実習で復活させ、地域住民の方と水車小屋の利活用を図る。今年度の実習は、水車小屋の認知度を向上させ、集客を見込むために「トリックアート案内板」を作成。訪れる人々に楽しんでもらいながら、水車小屋までを道案内する。それにより、人々にとって憩いの場を提供。
P31	インフルエンサーマーケティングによるPRの効能について 磯野菜々加(総政4年;伊佐田ゼミ) インフルエンサーマーケティングによるPRの効能と現状・問題点についての研究である。単純な広告とは違いクチコミであるという側面を持ち、消費者により身近な印象を与えるインフルエンサーマーケティングが、最も効果を発揮するPR方法を明らかにすることを目的に、インフルエンサーへの印象や信頼性による販売意欲促進効果の差やPRという表記、ステルスマーケティングなどに関連付けて調査を行う。また、その中でも市場の約3割を占め、近年拡大傾向にあるアフィリエイト広告について調査し、その現状・問題点を明らかにする。
P32	インバウンドのオーバーツーリズムによる問題への対策 in 京都 村上鈴(総政3年;斉藤ゼミ)・中西満里乃・塩飽梨沙・山本滯志・川上佳織・坂本春菜 京都は日本の観光都市として長年栄えており、今でもその人気を獲得している。しかし、その人気の裏側で、近年、京都では観光客の増えすぎによって様々な問題が発生している。具体的には、観光客が増加し、京都地元のお客様がお店に行けなくなる、また観光客の過度なバス利用による交通渋滞やバスの運賃の高騰を招いている。この状態が続くとUNWTOが提唱しているサステナブルツーリズムの視点から、京都は今後、持続可能な観光都市ではなくなる恐れがある。そこで、私たちは京都の現地調査などを踏まえ、対策を提案する。
P33	地域連携型宿泊施設の地域活性化への貢献についての事例研究 藤田菜々子(総政3年;斉藤ゼミ)・三瀬修平・友成采音 「地域と連携した宿泊施設で地域活性化を図ることは可能なのだろうか」というテーマのもと、私たちの身近な観光地として知られている丹波篠山市の宿泊施設と地域のつながりを考察していく。篠山城下町ホテルNIPPONIAが行っている城下町全体をホテルにするプロジェクトがある。宿泊を通して、丹波篠山市の豊かな自然や歴史的な風情ある街並みに触れることができる。それにより、宿泊者の周辺商業施設の利用が経済的価値を生み出すことが、地域活性化につながる。プロジェクトの影響力の有無を調査・分析して、プロジェクトがより多くの商業施設に広がるように改善点を提案する。(265字)
P34	地域課題を教育資源として活用する「丹波篠山コンソーシアム」の構築 江角優帆(篠山産業高3年)・佐々木人希 ～H型人材の育成・人間中心の社会(Society5.0)実現に向けて～ 地域課題を資源として活用する「丹波篠山コンソーシアム」の構築をめざし、高校生が自らの力で丹波篠山の魅力を再発見し、開拓する体験を通じて、「交渉力」や「リーダーシップ」、「責任感」、「チャレンジ精神」を高め、世界に向けて丹波篠山の魅力を発信し続ける「発信力」を養成し、高い専門分野をもち、さらに他の専門分野をもった人材とつながることのできる、グローバルな「H型人材」を目指す。

P35	人口減少のメリットを生かすには 足立凌(柏原高2年)・芦田峻馬・石田恵大 現代の日本の大きな課題の一つとして人口減少がよく挙げられる。この問題はよく話題に上がるが、これをデメリットとしてみることが多い。しかし、人口減少をデメリットでなくメリットとする見方もあり、この考えに興味を持ったのでこれをテーマとした。研究の過程で、人口減少をメリットとするにはやはり労働力の減少とそれを原因とする経済の縮小が大きな障壁になることがわかり、これを解決することで人口減少は課題ではなくむしろ利益として見ることができると考え、解決方法を考えるために調査を行なった。
P36	丹波市を外国人にとって住みやすい街に 西田朱里(柏原高) 兵庫県丹波市を外国人にとって住みやすい街にするためにはどうすれば良いか。丹波市を活性させるためには、外国人を呼び込み、そのためには外国人にとって住みやすい街であるべきだと考えた。丹波市を住みやすい街にするためにはどうすればいいか、フィールドワークに行き、課題をたくさん出した。その課題を見て、今後どうすれば良いか考えた。
P37	より良い柏原高校に 廣岡潤哉(柏原高2年)・山名健次郎・谷垣直哉・谷健生・古川涼介 情報発信、授業改革、マスコットキャラクターの作成を行い柏原高校の入学希望者増加や知名度の上昇などを促進する。
P38	丹波三宝を用いた離乳食&ベジタリアン 荒木勇真(柏原高2年)・足立快仁・稲畑紘太・栗山大陸・高橋翔大 私たちは、自分たちが住んでいる丹波の産業を活性化させることを最終目標として、特産品、特に丹波三宝と呼ばれる丹波大納言小豆・丹波黒大豆・丹波栗という3つの特産品に焦点を当てた研究を進めています。具体的には『丹波三宝を用いた離乳食』というテーマを立てて、丹波三宝を離乳食に加工することについて調べています。丹波三宝を離乳食に加工するにあたっての実際のデータを集めるために、私たちは「丹波三宝を使った離乳食」として商品化させてこの研究をかたちにすることも見据えて現在研究を行っています。
P39	深めよう！地元愛！ 大垣瑞樹(柏原高2年)・荒木凌・大森あこ・下井文汰・村上輝恋 兵庫県丹波市は、人口減少が一つの課題となっている。そこで、私たちは「地域密着型の祭り」をすることで、丹波市全域の多くの方と、丹波市から転出した方に祭りに参加してもらい、丹波市の魅力を再確認し、丹波市の発展について考える機会にしてもらいたいと思いテーマを設定した。対象とする祭りとして、丹波市で最も多くの人々が参加する丹波市氷上町の「愛宕(あたご)祭り」とし、愛宕祭り実行委員へのフィールドワーク、アンケート調査、現地調査などを行い、問題点・課題を見つけ出し改善点・改善策を提言する。
P40	人生100年時代！！朝食が与える影響は？！ 小森菜々香(総政3年;安高ゼミ)・神崎朱夏・竹内葵・千代涼介 「大学生の朝食欠食による疲労の自覚症状および生活習慣への影響」をテーマに、基本情報・朝食・睡眠・疲労の自覚症状の4つの項目から、自由記述を含めた選択式のアンケートを作成し、関西にある2校の私立大学(関西大学・関西学院大学)と2校の国公立大学(神戸大学・大阪大学)の計4校の大学生400人を対象にデータを収集し、研究を進めた。朝食と睡眠が本当に大学生の生活習慣に影響するのかを、過去のデータと比較し、さらに性別・大学別・住居別などによる影響の有無についても考察する。
P41	ポイ捨てを見逃すな！～公園でのごみ対策の現状と今後の課題～ 上丞泰輝(総政3年;宮川ゼミ)・臼井優香・福井志織・山田理紗子 近年、SNSの普及に伴う食べ歩きスポットの増加や訪日外国人観光客の増加などに関わって、ごみのポイ捨てが社会問題として注目されることが増えている。ポイ捨ては様々な場所でみられるが、公園もポイ捨てがされる主要な場所の一つである。なぜ、公園でのごみのポイ捨てはなくなるのか？本研究では、文献調査、公園に関わる様々なステークホルダーを対象とした調査、現地調査などの結果を通じて、公園でのごみ捨てに対する対策の現状と今後の課題について考察を行う。

P42	食品ロス削減戦隊ビゴン 土口紗英(北摂三田高2年) テーマは食品ロス品の有効活用の模索である。きっかけは、日本の年間食品ロス量に対して、子供の貧困率が高いことに矛盾を感じたからだ。三田市学生のまちづくり活動の補助を受けて活動する。内容は、アンケート調査、無償提供、試食会だ。事前調査で食品ロスの意識を図り、賞味期限と消費期限の違いと食品ロスの現状を定着させる。発展として、食品ロスを未然に防ぐアプローチを家庭と企業に分けて模索していくつもりだ。
P43	メイクセラピーによる自己肯定感の上昇 永吉暖(北摂三田高) 高齢化が問題視される中、高齢者の外見に対する自己肯定感に着目し、それをメイクセラピーによって上昇させることによって、少しでも心の健康寿命を引き伸ばせるのではないかと考え、介護福祉の分野で認知症の予防や、ADL(日常生活動作)やQOL(生活の質)の維持向上などを目的に行われている化学療法である、メイクセラピーを実践し効果を調べます。また、メイクセラピーを知ってもらうために、簡単なマニュアルを作成し普及していきます。
P44	郊外都市における太陽光発電導入の是非～データによる発電量、費用資産～ 橋佑樹(総政4年;山田ゼミ) 近年、エネルギー不足、環境破壊問題を背景に、再生可能エネルギーによる石油エネルギーの代替が積極的に議論されている。本研究では、総合的な知識が求められる、既存エネルギーから太陽光発電への転換問題において、物理モデルのエネルギー変換効率をもとに、具体的な都市を想定した可否を議論したい。具体的には、大都市近郊の外交都市を想定し、物理学モデルに基づくエネルギー変換効率と地図データを組み合わせ、太陽光発電導入の是非を検討する。そのために、対象都市における太陽光発電導入における発電量を、地図・気象データより試算し、同時に長期的な費用問題の試算と結果の視覚化を目指す。
P45	熱流体解析とエネルギー収支分析による持続可能キャンパスモデルの提案 ハンター山下星(総政3年;客野ゼミ)・堀正太郎・和田麻由・今村朱理 現在の発電システムは社会的にも、環境的にも持続可能でなく、次世代へ豊かな環境を引き継ぐためには、太陽光や風力、地熱などの持続可能エネルギーの活用と、屋上緑化や壁面緑化、水面を活用したパッシブクーリングの手法によるエネルギー使用量の削減の両方が求められています。そこで、私たちはローカルな領域における持続可能エネルギー活用、パッシブクーリング活用のモデルとして、KSCIにおける熱流体解析とエネルギー収支解析を行い、KSCをエネルギー面で自立したキャンパスにすることができかどうか検証するとともに、その具体的な方策を提案します。
P46	海洋プラスチックによる海洋生物への影響 中村ゆらら(京都学園高1年)・張楓敏・田中夢弓・足尾里奈・河邊美羽 世界と日本別の水揚量推移のグラフを用いて、その原因はゴミの誤飲が死亡につながり減少したものと仮定し、検討する。そして海洋汚染や、地球温暖化による水温問題などがある一方で、海洋へ遺棄されたゴミ達による海洋生物を巡る問題は大きな課題となっている。そして彼らは、年間で約8万トン、飛行機として換算すると約5万機にもなる海洋に遺棄されたゴミを誤飲し命を落としている。陸に住む人間には想像しにくい海洋の様子を動画や資料を使って印象付け、この状況の原点は全て人間であるというこの訴えとともに海洋生物をゴミから守る手段を提案する。
P47	日本における留学生のアルバイト雇用と管理の提案について 李拯宇(総政4年;伊佐田ゼミ) 留学生が資格外活動の許可を得てアルバイトをし、学費や生活費を稼ぎながら勉強できることは、長く日本留学の一つの誘引として取り上げられてきたが、1980年代末から90年代には、留学生の本当の来日目的は労働者として稼ぐことなのではないか、との目が向けられた。でも、近年外国人労働者や留学生は増加傾向にあり、多くの企業で外国人労働者の雇用ニーズが高まっている、これより留学生アルバイトの雇用と企業の管理の関係も微妙に変わった。
P48	「美ら海」の復興を目指して～ジュゴンが暮らせる海とは…～ 鶴原谷瑞樹(総政3年;今井ゼミ)・沼澤愛理・林泰吾・速水莉央奈 沖縄の海ではサンゴ礁の破壊が進み、海の汚染が進行している。それにより生態系の崩れや絶滅が懸念されている。その中で温暖できれいな海でしか生息することが出来ないジュゴンが絶滅の危機にさらされている。本研究では絶滅危惧種であるジュゴンについて、その生態や現状を現地調査と文献資料に基づき研究し、個体数が激減している原因を明確にすることで、ジュゴンを保全・保護するための政策を立案・提言する。発表者らは自然環境に人の手を一切加えられていないものではなく、動植物と人間を可能な限り共存させることを目的とする。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午後)Ⅱ号館101教室
15:10	Is the Handwashing class effective in junior high school in Cambodia? 野本友愛(総政3年)
101 金後 1	In 2016, about 5.6 million children under 5 died around the world. The main causes are Pneumonia, malaria, and diarrhea. All of these causes are preventable, but a lot of people die by these causes. Have you ever felt your life in danger by diarrhea? Since 2000, several 1 billion people worldwide have access to toilets and water, but safety has not been assured. Accessing to toilets and water is important way but establishing hygiene practices and washing hands with soap are the easiest and cheapest ways to prevent the spread of infection. Last fall semester, I went to Cambodia for International Volunteer Program. I actually conducted a questionnaire survey and a hand washing class in Cambodia. In this presentation, I will present results, observations, and proposals.
15:40	より豊かな暮らしを目指して～フィリピンのヌエバ・ビスカヤ州の事例を用いて～ 中根杏(総政3年;西野ゼミ)・王康・欧陽文静・阪本璃子・吉田さゆり
101 金後 2	近年、経済発展が顕著に見られるフィリピンだが、現在でもなお第一次産業である農業が主要産業として、フィリピンの経済を支えている側面がある。しかし、そこには様々な問題があり、結果としてそれらの問題が農民の収入の安定と生活の質の向上を妨げている。特に気候変動などのグローバルな課題の影響も多大に受けている。そこで、私たちは実際にフィリピンの農村部へ訪れ、農家や現地でソーシャルビジネスを運営している方にインタビュー調査を実施した。当発表ではその調査結果を用い、農家がより豊かな生活を送るための考察及び政策提言を行う。
16:10	スペースデブリの脅威:GPSが使えない! ? 新原有紗(総政3年;園田ゼミ)・福田明莉(総政3年)
101 金後 3	宇宙の開発・利用に伴い、スペースデブリ(Space Debris/宇宙ゴミ)は年々増加し、人類の宇宙活動にとって大きな脅威となっている。デブリが高速で周回しているため、もし通信・位置情報などに関わる衛星に衝突すると、私たちの日常生活に支障をきたす可能性がある。しかしながら現在、宇宙条約は、デブリ衝突への対策に関して定めていない。この分野において、技術的に国際評価の高い日本がどのように貢献することができるか、NASAやJAXA、先進諸国の取組みを中心に国際社会の現状を分析し、日本の政策について考察する。
16:50	地方方言の衰退 坂東真衣(総政4年;HEFFERNANゼミ)・原武士・南方皐佑
101 金後 4	私達は関西出身である50代から80代の6人の方にインタビューを行いました。その結果と参考文献により関西弁は後世まで受け継がれていることが分かりました。そこで私達は比較的都市部で用いられている関西弁とは反対の地方方言は関西弁と同じように存続しているのか疑問に感じ、去年の9月に富山県へ行き70代以上の10人の方にインタビューを行いました。さらに富山県出身の関学生にもインタビューも行いました。インタビューと参考文献の結果からメディアによる影響が大きく地方方言はイメージが形成されないために衰退しているということが分かりました。
17:20	外国人日本語学習者の方言の使用について 末廣美紗乃(総政3年;HEFFERNANゼミ)・上野優芽・黒岩明華
101 金後 5	日本語には標準語とその地域ごとに方言がある。方言とは、外国人日本語学習者にとって、日本人とコミュニケーションをとっていくために、大切な手段であるが、方言を学ぶ機会は少なく、方言を知らないために様々な誤解が生じることがある。この研究では、外国人日本語学習者と、日本人とのコミュニケーションを改善することを目的とする。まず日本語学習者が、日本人との会話の中で使用する方言をインタビューによって調査し、傾向を確認した。その後問題点を把握し、解決策を提案する。
17:50	高齢者の尊厳とメンタルケア 木幡詩菜(葺合高2年)
101 金後 6	近年、日本における高齢人口増加に伴い、高齢者支援政策が議論されつつある。しかし、介護現場における高齢者の「尊厳」「精神的サポート」等に関する取り組みは不足していると感じる。高齢者の精神的不安感が精神疾患や身体機能衰弱などの原因となることが明白な今、この問題にも真剣に向き合っていく必要がある。今夏、私は福祉国家として有名なフィンランドの高齢者施設で3週間にわたりインターンを行った。本研究ではその経験を元に、日本の高齢者福祉について考え、人間科学の分野を追求することで上述した高齢者の尊厳及び精神の安定に焦点を当て考察する。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午後)Ⅱ号館102教室
15:10	米中2極化体制の時代は来るのか 森田美里(総政3年;実ゼミ)・濱田杏佳・田百合・武本絵修・上野史央里
102 金後 1	アメリカと中国の間の摩擦が激しくなっている。私たちはこの2つの超大国の対立が世界のパワーバランスにどう影響し世界がどのように変化していくのかを研究する。本研究の主軸として「米中2極化体制の時代は来るのか」を説明すべき問いとして設定した。米ソ冷戦時代の世界と今の世界との比較分析を研究の軸に据える。政治体制、経済、安全保障体制の大きく3つの観点からそれぞれ、過去と今を比較し、類似点や異なる点をあぶり出す。変動する世界情勢の中で今後の日本がどうしていくべきかも考える。
15:40	カベは答えじゃない～トランプに打ち勝つ移民政策とは～ 山崎市茅乃(総政3年;実ゼミ)・大木裕太郎・神津弥里・有本美咲・木戸美里
102 金後 2	昨今のアメリカでは、中南米からの不法移民が増大し、これにどう対処するかを巡って世論が大きく分かれている。国境に壁を建設すると公約に掲げたドナルド・トランプが前回の大統領選で当選したことが政治的な分断に拍車をかけている。不法移民問題は2020年の大統領選でも大きな争点になるであろう。トランプ政権の不法移民対策は果たして効果的なのだろうか。超党派で合意が得られるような現実的な政策はないのだろうか。これを考察することは、外国人労働者の受け入れ拡大を決めた日本の将来を考えるうえでも参考になると思われる。
16:10	自由貿易協定の効果～日本とチリのFTAが日本へのワイン輸入に与える影響～ 大山洋子(総政3年;西立野ゼミ)・草原大樹・向井実望
102 金後 3	今日グローバル化が進み、日本にも様々な国のヒト・モノ・カネ・情報が飛び交うようになった。ワインもそのうちのひとつであり、現在国内で消費されるワインのなかで最も消費されているのがチリ産のワインである。我々はその背景として2007年にチリと自由貿易協定を締結したことに注目した。本発表ではチリとの自由貿易協定によりどれだけチリ産ワインの輸入量が増加したかを分析する。そのうえで、ワインは日本にとって比較劣位の産業であるため日本のワイン産業への影響を懸念し、日本のワイン産業への政策提言を行う。
16:50	アメリカはグローバル化で損しているのか～中国側から見る米中貿易摩擦～ 王朝(総政3年;坂口ゼミ)
102 金後 4	2018年3月アメリカが安全保障を理由にし、中国の鉄鋼、アルミ製品への追加関税措置が発動された。それに対して中国はアメリカの大豆へ報復関税をかけることによって史上最大の貿易戦争が始まり、エスカレートし現時点まで続いてきた。歴史上米国が相手となる貿易摩擦の中、米中貿易摩擦は一番長く続いてきた。日米貿易摩擦を参考にして米国が貿易戦争を起こした根拠・目的に対して中国側はどう捉えているのか、両国とも譲歩できない利害関係は何だろう。また、米中貿易戦争が今後中国の発展に与える啓示を考察する。
17:20	喜界島方言の格標示形式に関する研究 藤岡汐音(総政3年;今西ゼミ)・吉村梓未・藤井琴巳・寺本志織・藤本真緒・和田明香里・藤村真衣・井口加奈子・島本結菜・森本かれん・谷本咲
102 金後 5	本発表は、鹿児島県奄美群島の北東部に位置する喜界島で話されている喜界島方言(または喜界語)に関する研究である。喜界島方言は2009年にユネスコにより消滅危機言語に指定されており、本土方言と喜界島方言では音声、形態、統語に大きな違いが認められている。喜界島方言に関する先行研究は存在するものの、その数は少ないのが現状である。当ゼミでは喜界島でのフィールドワークを行い、喜界島方言の形態と統語、特に格標示に着目し、(1)主語の意味特性によって主格標示様式が変化する、(2)動作主性が高い述語の文における主格標示はハダカ(=格標示無し)になりやすい、という2つの仮説を設定し、調査と分析を行なった。本発表では、先行研究と当ゼミの調査から得られた結果を基に、喜界島方言の格標示形式に関する分析を提示する。
17:50	増える外国人 減る生産年齢人口 高橋潤平(総政3年;長峯ゼミ)・吉田伊織・末廣友喜・田村瑞希・重安美来
102 金後 6	出入国管理法が改正された日本において、外国人技能実習生が増加していくと考えられる。それにより以前から問題視されてきた日本での外国人技能実習生への社会保障制度の整備は必要となるだろう。現状日本国内で大きな負担となっている社会保障費のさらなる増加は日本に大きな影響を与えるだろう。そこで私たちの間では、社会保障制度の中でも、健康保険と年金制度に焦点を当て、日本と海外諸国との外国人労働者への社会保障制度の比較や社会保障協定をもとに、出入国管理法改正によって日本社会にどのような影響があるのかを読み解く。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午後)Ⅱ号館111教室
15:10	ビデオ映像の時系列特性と地理的関係性に基づく情報推薦 橋本樹(総政4年;角谷ゼミ)
111 金後 1	近年、Netflixやhuluなどストリーミング形式のサブスクリプションサービスが急速に普及している。それに伴い、NHKや民間放送局もHybrid Castなどのテレビ番組と同画面上で関連情報の推薦や視聴者によるコメントのアノテーションを行うサービスの提供を開始し、テレビの放送が視聴者にとってよりインタラクティブに変化してきている。しかし、現在はまだテレビを用いたインタラクティブなサービスが十分に普及しているとは言えない。そこで本研究では、映像の時系列特性を考慮した地理的関係性の抽出と字幕データを用いた重要語判定を行い、映像を対象として個人化された情報推薦を行う手法の提案を行う。
15:40	料理動画の調理難易度抽出および補助レシピ動画の自動生成 米澤拓也(総政4年;角谷ゼミ)
111 金後 2	KurashiruやDELISH KITCHENなどの1分程度に編集されたレシピ動画は、短時間で料理の要点を概観可能であり、レシピ内容の把握が容易である一方、動画を閲覧せずに、あるいは一度の視聴だけでは調理動作を理解することは困難である。また、それぞれの料理に対して難易度が表示されていないため、ユーザは直感的に各料理の難易度を掴むことが出来ない。そこで、本研究では、既存のレシピ動画に含まれている、「調理動作」から、シーンごとの難易度を判定・抽出し、レシピ動画の難易度提供および補足情報を含めた料理動画の自動生成を目指す。
16:10	日本の英語教育の発展を目指して 小林俊輝(総政2年)
111 金後 3	近年、日本のグローバル化が進む中、2020年は「教育改革」と呼ばれ、その年に文部科学省は小学校の高学年の外国語(英語)の教科化や中等教育での英語の授業を原則として英語で行う方針にするなど、英語に関する学習指導要領完全実施を目前としている。そもそも、日本人にとって英語は本当に必要なものか。もし必要ならば、なぜ必要なのか。こういった点も含め、現在の日本の英語教育の欠点・要因を、仮説を基に分析し、今後の日本教育の発展を目指す。
16:50	「あなたの不満買い取ります」から読み取る女性の声 松本佳依(総政4年;三道ゼミ)
111 金後 4	本研究では、国立情報学研究所を通してInsight Tech, Inc.より提供された「あなたの不満を買い取ります」の不満調査データと投稿ユーザ情報を用いて、テキストマイニングを行った。不満調査データは5、248、820レコード、9フィールドからなる。現在、多くの企業で、女性の活躍による効果が期待されており、今後もさまざまな分野で女性の声は重要視されると考えられる。これを踏まえ、本研究では、分析対象を投稿者が女性であるテキストデータに絞り、女性による不満の声のみを抽出し、その特徴を明らかにすることを試みる。
17:20	「あなたの不満を買い取ります」から読み取る鉄道に関する社会問題～ベイズ学習による投稿者の不明な属性の推定～ 王帥(総政4年;三道ゼミ)
111 金後 5	「あなたの不満買い取ります」から提供されたデータの様々なカテゴリーのうち「公共・環境」に焦点を当て、さらに「駅・電車」というサブカテゴリーに注目した。次に、フリーのテキストマイニングソフトであるKH-Coderを用いて、不満データのテキストマイニングを行った。ただし、提供されたデータには投稿者の属性が不明のものも少なくなく、ここではベイズ学習を行うことで不明な属性の推定を行う。この上で、従来のテキストマイニング手法をそのまま適用するのではなく、コーディングという概念を用いてテキストマイニングを行った結果を紹介する。
17:50	地理オブジェクトの複数の役割を考慮した検索システムの提案 大塚公貴(総政4年;角谷ゼミ)
111 金後 6	近年、様々なサービスが登場し、地理オブジェクトの役割は多様化している。例えば、同じカフェであっても「個人の作業スペースの多い」カフェAと「ボックス席の多い」カフェBでは地理オブジェクトとしての役割が異なっている。しかし、既存の検索システムではこのような役割を考慮した検索を行うことが困難である。そこで、本研究では地理オブジェクトに対して特徴量を付与することにより、ユーザの複雑な検索要求に答えるシステムを提案する。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午後)Ⅱ号館201教室
15:10	インバウンド対策としての古民家ゲストハウス～外国人にもっと利用してもらうためには何が必要なのか 前田晴香(総政3年;清水ゼミ)・大井博樹・西田航規
201 金後 1	政府は、訪日外国人旅行者数の目標を2020年までに4000万人とした。しかし、現在の日本では宿泊施設の不足が懸念されている。そこで本研究は、古民家を改修したゲストハウスを更なるインバウンドを受け入れる宿泊施設になりうるのではないかと考える。訪日外国人が宿泊施設に求める「日本らしさ」に加えて「日本文化体験の提供」を強みとした、古民家ゲストハウスについて研究した。本研究から古民家ゲストハウスを外国人観光客にもっと利用してもらうためには何が必要なのかを考察したい。
15:40	地域資源を照らす光～ライトアップによるまちおこし～ 後藤慧(総政3年;清水ゼミ)・松本快生
201 金後 2	近年、地域活性化の手法の一つとして、投光器やLED照明を用いることにより、日中の景観とは異なる夜間景観の演出を行うライトアップ事業の数が増加している。一般的にライトアップは街の活性化を目的に実施され、その照らし出す対象は歴史的建造物や駅などの街並みに加えて、樹木や河川のような自然まで幅広く存在する。さらに、棚田など、従来は観光資源ではない人々の生活要素を照らし出すことで日常の一部に新たな価値を付与し、観光資源を創出するような事例も存在する。本研究では、事業主体や地域の特性を踏まえ、効果的なライトアップの手法を考案する。
16:10	The Potentials and Challenges to Solve the Regional Disparity by Students 横山菜乃(総政3年)
201 金後 3	In these days, regional disparity is one of the big issue in the world. The people who lives in next generation, students, is very important to deal with the world issues and to achieve SDGs, which is the goal for 2030. This research is for determining the potentials and challenges to solve the regional disparity by the high school or university students. To find out the consequences, the case in new village, which is the Chinese Malay community in Malaysia and Toyooka in Hyogo prefecture are used which is the speaker's experience.
16:50	過疎地域の交通機関の利用促進と未来 綱真輝(総政3年;客野ゼミ)・池内瑛美・松本遥佳
201 金後 4	進みゆく日本の少子高齢化社会において、過疎地域の小中学校では、統廃合が加速している。これにより、通学圏が大幅に拡大し、学生はスクールバスなどの交通機関を利用せざるをえない状況にある。しかし、スクールバスはコストを要し、本数の制限があることや、部活、課外活動との連携が難しく、過疎地域において学生や地域住民を交通弱者に貶めている。このような状況を改善するために、我々は過疎地域における持続的な公共交通機関の維持を達成するための新たな交通体系の提言と、それに資する知見を、現地における調査や地理情報システムを用いた分析を通して得る。
17:20	タピオカの次はベジスイーツ！ 鷹取杏実(総政3年;古川ゼミ)・大塚有紗・柏木菜々花・籠谷琢磨
201 金後 5	食文化の多様化やInstagramの流行などの影響により、現代の食生活においてスイーツが占める割合が高まっている。また、健康志向の高まりにより健康食品の需要が高まりつつあるといえる。これらの点から令和の時代に流行るスイーツを予想し、「野菜を使ったベジスイーツが流行る」という仮説を立て、若者(=学生)をターゲットに設定しマーケティング戦略を考える。学生へのアンケート結果をもとに統計分析を行い、学生に人気が出る健康的なベジスイーツのイメージを予想し、提案する。
17:50	賞味期限切れ商品の意識改革～ビジネスプランの提唱～ 瀬瀬響七(総政1年;小西ゼミ)・福里雄之・大谷真生・森澤一充(総政1年;山中ゼミ)・橋本みれあ(総政1年;宗前ゼミ)・桑川裕希
201 金後 6	私たちは、賞味期限間近の商品から考えるビジネスプランについて発表する。日本の食品ロスは、アフリカの飢饉を救うと言われており、毎日多くの食品が捨てられている。それらを減らすための方法を提唱する。そこで私たちが注目したのは、賞味期限切れ間近の商品である。まだ食べられるのに捨てられる商品の安全性を理解してもらい、販売するビジネスをしたいと考えています。実際に利益を考え、その利益で食費ロス削減のサイクルを作り、一部を寄付という形で団体やNPO、NGOに寄付することを計画している。

開始時刻 No.	口頭発表(金曜・午後)Ⅱ号館204教室
15:10	中国・青島市における里院建築地区の形成・変容・再生に関する研究～大鮑島地区における里院の類型 高峰(総政M2;山根ゼミ)
204 金後 1	かつてドイツの租借地であった青島には「里院」と呼ばれる独特な住宅建築が形成された。現在、青島市政府が主体となり、100年以上の歴史を有する里院建築地区をすぐれた歴史的遺産として保存再生するプロジェクトが進行中である。しかしその進め方は必ずしも順調とはいえない面もあり、プロジェクト期間、予算面、住民への対応など様々な問題も存在している。本研究の目的は、里院建築地区の形成・変容・再生に関する歴史、現状、問題点等を明らかにし、よりよい保存再生のための方策を検討することである。本発表では里院の建築的特徴に関する分析を行い、類型化を行った。
15:40	日銀の物価目標達成に向けて～金融政策のアナウンス分析～ 岡本和己(総政M1)
204 金後 2	日本はバブル崩壊以降、長期的なデフレに陥っている。そこで、日本銀行は物価上昇目標2%を掲げ、様々な金融政策を導入してきた。しかし、2019年9月時点ではいまだに達成されていない。名目金利を引き下げることによる目標達成には限界があり、日本銀行は金融政策を積極的にアナウンスすることで期待インフレ率を引き上げ、物価上昇を目論んでいる。そこで本研究では、テキストマイニングを用いて期待インフレ率を推計し、金融政策のアナウンスが期待インフレ率に与える影響を分析する。
16:10	テレビ番組の視聴行動に関する日中比較研究 文凱瑩(総政M2)
204 金後 3	インターネットを利用しサービスが普及しスマートフォンが広く利用されるようになったことで、テレビ視聴者を取り巻くメディア環境は大きく変化し、テレビを自分が見たい時に見たい方法で見る“カスタマイズ視聴”やテレビ番組を見ながら他人とコミュニケーションする“つながり視聴”が広がっている。テレビ番組を見る時、視聴者は何故インターネットやソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用して番組に関する内容を発信するのであろうか。本研究は、中国と日本でアンケート調査を実施し、複数メディアを同時利用する視聴者の視聴行動と心理的特徴を明らかにする。さらに、視聴行動の中日比較を行い、二国間の視聴行動の間の違いを明らかにする。
16:50	快適な音の研究―デシベルの違いから大阪府内の音を解剖する 馬欣媛(総政M2;今井ゼミ)
204 金後 4	サウンドスケープは日常生活に重要な構成部分とされている。音の響きは、人々の生活文化の一部である(山田, 2000)。李、陳と徐(2008)の研究によれば、快適な音環境は、早産児の体重の増加と睡眠時間の延長に大きな影響を与え、心身健康に効果がある。心地良い音環境は人々の心身健康にとって重要な影響要素になる。本研究では、大阪府の今と昔の音風景を探究した上で、大阪府における音環境の異なるいくつかの地点でのサウンドスケープを調査して、人間にとって心地良い音環境について探究する。
17:20	震災復興住宅からみる復興25年の今 北原裕也(総政M1)
204 金後 5	阪神・淡路大震災における大量の住宅不足を解消するべく、県や市によって供給された災害復興公営住宅は、当時としては画期的な手法で実施された。その当時としては、まだ日本に広まっていなかったコレクティブハウスやLSA付きシルバーハウジングなどが導入された。震災から四半世紀が経過した現在、復興公営住宅内の高齢化、LSAやボランティアの減少等コミュニティの問題が以前から顕在化しており、今後の利活用方法や震災復興における住宅供給のあり方を再編すべきである。

場所	時間帯	自由形式(金曜)
Ⅱ-107	金 13:00 ～14:00	自然災害が発生した場合における避難所の在り方、また私たちがとるべき対応とは 藤生さやか(総政3年・鬼丸ゼミ)・大西春香・堀健人・市島香里奈・木村恭子・井上龍一・岩佐果純・元田愛・大坂愛・三城華子・森美瑛子 近頃日本では、大型の自然災害が多発している。それに伴い、多くの被災者が避難所生活を強いられている状況だ。しかし、長期的な避難所生活は身体、精神ともに苦痛が多く、様々な観点から問題視されている。このことから、我々は避難所におけるいくつかの問題を抽出し、検討を行った。そして、実際に2m×2m×2mの空間を再現し、より快適な空間の可能性を提案する。また、自然災害の被害を抑制するためには公助、共助、自助の3つの連携が重要であると考え、被害抑制のための最適な連携、方策はどういったものなのかを併せて報告する。
Ⅱ-国際交流コーナー	金 11:00 ～18:00	映像で表現 石川泰地(総政2年)・岡本貴登・近藤理菜・宗田凜花・ヤン・ヒョン・中越陽香・守田茉央・島田拓空也・吉見莉采・西岡佑夏・内藤有希子・赤田未来・森口由伸・加藤芙美香 私たちは春学期の行われた授業「メディア制作演習(表現)」を履修したものです。私たちは授業の中で「学生が社会に訴えかける番組の制作」をテーマに六つのチームに分け、その中で、プロデューサー、デザイン、映像、CG、サウンドの役割に分かれ、制作を行いました。それぞれのチームで、一から企画書を作り、実際にアポイントメントを取り、取材先へ取材を行うなどして、動画を編集し、それぞれ10分間の番組を制作しました。完成した6つの番組は、【HOME GROUND～人生のヒントは畑の中に～】【SALA～お母さんたちの食堂～】【キャンパスハラスメント～もしかするとあなたも加害者～】【VEGAN】【ONE ROOF】【あなたはスマホ老眼】です。
Ⅱ-205	金 11:00 ～18:00	ドローンの可能性～プログラミング制御によるデモフライト～ 久木野航平(総政3年・山田ゼミ)・安藤大悟・石田裕己・小野瑞己・徳田浩平・道圓考祐・白井翼・成田篤紀 最近、ドローンという言葉に日本人も慣れてきた。ただどのくらいの人々が実際にドローンに触る経験をしたことがあるだろうか？ドローンという言葉だけを聞いて、「なんかすごい技術だけど具体的にどんな風に操縦して、何ができるか、イメージ付かない」という人がほとんどだろう。私たち山田ゼミでは、ゼミの学習活動の一環として、デジタル技術を応用したメディアであるドローンを学んでいる。今回のリサーチフェアでは私たちがドローンで実際に飛ばして撮影した映像、プログラミング言語であるpythonを使ったドローンの制御、さらに展示を見に来てくれた方にドローンの操縦体験3つでドローンについて知っていただく機会を設けたいと考えている。
Ⅱ-208	金 11:00 ～18:00	ニューカレドニア島～本当に「天国に一番近い島」なのか～ 古橋玲也(総政3年・津田ゼミ)・岡村勇太・湯田健太郎・佐藤ふみ・伊藤茜・中嶋一翔・次井千恵・大岡瞭輔・二宮楓子・北野こゆき・巖キララ・三砂安純・櫻井智内・鶴川裕規 今年度津田ゼミでニューカレドニアに1週間研修に訪れました。そのなかで知ったニューカレドニアという国。日本との戦前からの繋がり。私達は森村桂さんの小説のタイトルである「天国に一番近い島」ということしか知らないのでは無いだろうか。今回のこの展示では私達が感じたニューカレドニアという島の新たな一面をテーマとして映像と写真をメインに展示していきます。
Ⅱ-209	金 11:00 ～18:00	消滅危機言語のアーカイブ～喜界島での研究を通して～ 山本雅(総政3年・今西ゼミ)・杉山冬香・香月希結・若松明日花・大平真奈・松本紀慧・古橋玲也 本発表の目的は、2019年9月に奄美・喜界島で行ったフィールドワークの記録映像を通して、消滅危機言語である喜界語を保存・継承することである。言語は、人間の文化や生活を後世に残すための媒体として重要な役割を担っている。したがって、言語を継承する事は、その母語話者の文化や生活を後世に残す事に繋がると考えられる。また、言語の多様性は人間の多様性そのものであるため、喜界語を継承することは喜界島に住む人々の多様性を残すことに繋がる。本発表では、喜界語母語話者や当該言語の保存に取り組む人々などを記録した映像や音声データのアーカイブ化を目指す。
Ⅱ-211	金 11:00 ～18:00	固定概念展～#KuTooに潜む、社会の慣習～ 川西麻裕(総政4年)・塚本和泉・小鍛冶麻梨 就職活動を通して、「ヒールを履くということが正装である」という社会の慣習を体感した。このような社会の風潮を通して、現代には未だ「固定概念」が数多く存在し、これらの「固定概念」が選択肢を狭めているのではないかと感じた。このような背景から、#KuTooをテーマにした作品の制作を行う。#KuTooとは、さまざまな職業にわたって、女性がパンプスを履くことを義務付けられていることに対する運動である。今回の制作では、#KuTooをフェミニズムの問題として捉えるだけでなく、「人々がより過ごしやすい世界を作るための運動」と捉え、今までの当たり前を問題提起したいと考えている。
Ⅱ-213	金 11:00 ～18:00	震災を経験していない私たちに何ができるのか。～震災未経験者に記憶を伝える意味～ 中川侑海(総政3年)・氏家里菜・北野こゆき・春口桃奈・東浦由真・三砂安純 来年1月、私たちは阪神淡路大震災発生から25年を迎える。約2年間に渡る当時の様子が記録されたデジタル媒体をアーカイブする活動と地道なインタビュー取材の中で、私たちが自分自身に問い続けた「震災を経験していない私たちに何ができるのか。」という問いを本展示のテーマとし、様々な表現方法で同世代の学生に震災と震災をきっかけに変わっていく人々の歩みを表現する。阪神淡路大震災節目の年にもう一步被災者に寄り添うことができるように、今、震災を経験していない「あなた」に知っていただきたいと考える。

開始時刻 No.	口頭発表(土曜・午前)Ⅱ号館101教室
9:30	掲げよう！6色の虹～セクシャルマイノリティと生きる社会～ 今井美結(御影高2年)・植松愛美・佐野悠月・山本愛子
101 土前 1	セクシャルマイノリティへの理解が高い集団は、①価値観が多様であり、②自分のマイノリティ部分を他者に開示しやすく、③セクシャルマイノリティについての知識理解が高いという3つの仮説を立て、まず、アンケート調査によって検証を試みた。結果として、③知識理解の高さ、②開示性の高さ、①多様性の高さの順で、セクマイへの理解度との相関性が高いと言えるかと判断した。当事者の方へのインタビューも含めたこれらの結果をもとに先進事例にあたり、高校という場での環境改善を提案すべく研究を続けていく。
10:00	音楽市場の縮小を食い止める方法とは？～アーティストが持続的に音楽活動をするために～ 檜尾優樹(総政3年)・西原快
101 土前 2	音楽やその他の芸術・エンタメは、生活必需品でもなければ、経済活動に直接関わるものでもありません。一方で、音楽は人々の心の支えになっているという事実もあります。しかしながら現在、音楽市場の縮小により、ある一定の人気があるアーティストでも業界で生き残れない者が増えてきています。今回、私たちは音楽を愛する者として、このまま音楽を生み出す人間がいなくなってしまうのではという危機感から、音楽市場をリサーチし、どうすればアーティストが持続的に活動できるのかを考え、リサーチ・フェアで問題提起を行います。
10:30	国民間の「違い」はどこから生まれるのか？ 阿部恵也(総政3年・伊佐田ゼミ)・茅原拓海・溪本晃子
101 土前 3	私たちの研究テーマは、「違い」がどこから生まれるのかというものである。ある国の人と別の国の人を比べてみると、性格や価値観、思考は全く違うものだ。それらの「違い」はどのようにして生まれるのだろうか。この研究では日本と台湾を比較し、それぞれの国の方に回答していただいたアンケートを元に、まずは国民間で異なっている感覚、思考を明らかにする。そして、「国民性」という観点から違いの根源を研究していく。
11:10	長田区をアートの力で活性化 井上温仁(兵庫高1年)・前田明日美・岩倉菜桜・谷川陽音
101 土前 4	私達は「アート」の視点から商店街を活性化させようというテーマで研究しています。私達の最終的なゴールは商店街をコミュニケーションが生まれる場とし、異世代交流などが積極的に行われるようにする事です。そこで、商店街を明るい雰囲気にするため、また、子供たちに親しんでもらうために実際に商店街のハロウィンイベントに参加させて頂き、ランタンを作るワークショップを行いました。そのイベントの結果と、イベントの後のアンケートや実地調査を通して得られた反省や課題などを使い、今後の展望をお話します。

開始時刻 No.	口頭発表(土曜・午前)Ⅱ号館102教室
9:30	労働者の労働意欲に企業はどのように影響を与えることができるか 小山廉太郎(総政4年)
102 土前 1	近年、我が国では、厳しい雇用情勢と経済社会の変化の下、雇用形態の多様化や成果主義の進展等、企業や労働者を取り巻く状況は著しく変化している。これにより、働き方や仕事の内容も変化し、雇用の質的な変化が生じている。このような中で、労働者の働く意欲・満足度や労働生産性等の企業パフォーマンスと企業の雇用管理制度や雇用方針等の関係は一層重要になってくる。本研究は企業制度と労働者の働く意欲の関係性を明らかにし、より快適、創造力を活かせる職場を整備するために必要不可欠な制度を見つけ出し、より完善な労働環境を目指す。
10:00	あおり運転について 笹井康平(岡山龍谷高2年)・迫田将弥
102 土前 2	最近の「あおり運転」の報道を受けて考察した。そもそも「あおり運転」に関する法律はあるのか。疑問を持ち、笠岡自動車学校に行き、その職員の方にインタビューを行った。そもそも、「あおり運転」を取り締まるという道路交通法は存在しない。岡山県の現状を詳しく聞いた。また、トヨタのCMなどを通して、他県と比べて岡山県民はウイカー出さない傾向があることを知った。近い将来運転免許を取得する私たちも安心して運転ができるように、現状について、改善点を考察していきたい。
10:30	アイデアが生まれやすいオフィス環境とは 樺山ユリカ(総政3年;古川ゼミ)・早川和・堀井萌
102 土前 3	この頃、従来の島型のオフィスから社員が仕事をしやすくするため、オフィスレイアウトの工夫が進められている。これは、社員が働きやすい職場にすることで社員の働く意欲を上昇させ、仕事の能率を上げることに結び付き、結果的に会社に大きな利益を与えているからである。また、働くスペースの充実以外にも保育所の設置や仮眠スペース、トレーニングジムなどの公私混同した新しい形態のオフィスも増えている。これからの社会を担う若者にとって働きやすいオフィス、またアイデアを生み出しやすいオフィスとは何かを考える。
11:10	技能実習制度の「見える化」と地域の役割 吉田実央(葦合高)・桜井蘭歌
102 土前 4	近年外国人技能実習制度における労働問題、人権侵害が多く報道されている。日本政府は実習の実態の把握不足により違反に対する罰則などの制度がありながら、行使できずにいる。そこで、技能実習制度の「見える化」をテーマとしてこの制度における地域の役割に焦点を置き、「学生地域協議会」の設置を提案する。これは、実習生、受入企業、送出機関、管理団体、地域、日本政府などの連携を促進し、それぞれがメリットを受けられる形で行われる。
11:40	日本の製造業の国際化から見る理想的な海外進出～TOTO株式会社の事例と比較～ 新川涼梨(総政3年;安ゼミ)・伊福咲希・下村裕斗・河内勇貴・松田寛季・片山絢香・今井ゆき・越智慧
102 土前 5	近年のグローバル化により、人材や製品、情報、金銭などあらゆるものが世界を帆走している。それに伴って世界進出を進める日本企業も増加してきた。古来より職人気質の日本の、ハイクオリティな製品をグローバルスタンダードに落とし込んだり、進出先の地域に合わせ標準化する中で、如何に企業は自社の製品の優位性を保持し展開していくべきなのか。創業当初より国際化を視野に展開してきたTOTO株式会社の成功事例と、他日本の製造業を担う企業の国際化プロセスを比較しながら、理想的な海外進出メソッドについて提言していく。

開始時刻 No.	口頭発表(土曜・午前)Ⅱ号館111教室	
9:30	How to Raise Your Self-Esteem	上原壮司(葦合高1年)・渡辺純矢
111 土前 1	意見を自ら発信する能力が評価される現代社会においても、まだまだ日本における話し合いは活発でない。意見を発信する能力の向上には自己肯定感の向上も不可欠であると考え。しかし、日本の人々の自己肯定感他先進国に比べ著しく低い。我々は、幼いうちからオランダ教育のなかのコーチング教育を導入することによって日本人の自己肯定感を高められると考える。コーチング教育と自己肯定感との関係性、自己肯定感の低さが顕著である中学生を対象とした具体的な導入方法について提案する。	
10:00	感性の違いがデザインに与える影響～台湾と日本の比較研究～	田中輝一(総政3年;伊佐田ゼミ)・松原空良・伊藤大貴・玉井亮輔
111 土前 2	本研究は、年末に台湾で開催される台湾の大学との合同研究発表会に向けて研究を進めている。また本研究では、日本と台湾の感性のちがいが与えるデザインへの影響について、アンケート調査、並びにそれに基づいた研究手法によって感性がどのような影響をデザインに与えているのかを明らかにする。日本と台湾を研究対象とするが、この二国以外の国々の先行研究も用いる。現在、研究途上のため本番の発表では、多少変更点があるかもしれませんが、主にこちらの内容で発表を進める予定です。	
10:30	Disaster Management in Japan: Making Japan a Safer Place For Everyone	奥山聡一郎(千里国際高3年)
111 土前 3	This paper addresses the lack of awareness of disaster management of Japanese societies and resolving these problems by creating a foreigner-friendly community, improving multilanguage communications and a revised system of resources for foreigners, thus creating a more welcoming, safe and reliable community for everyone.	
11:10	プログラミング初学者向けの学習記録アプリケーション開発	小林薫(総政4年;伊佐田ゼミ)
111 土前 4	現在の日本ではIT人材不足が謳われており、プログラミングを学習する人が増えてきている。しかし、それと同時に挫折してしまう人が多いのも事実である。そこで本研究では、挫折の要因である「モチベーションの維持が困難であること」、「インプットが大量にあるが故に網羅できないこと」に着目しアプリケーションの開発を行った。主な内容はプログラミング初学者を対象とした学習時間の記録・内容の記録を主な機能とした学習アプリケーションの開発である。	
11:40	発達障害について	藤田愛梨(岡山龍谷高2年)・湯谷有紗
111 土前 5	まず、「発達障害」という言葉が学校においても良く聞かれる。しかし、私達高校生はその言葉をよく知らず、知ろうともしない。しかし、私たちのクラスの中には将来教師や保育士など教育関係に就職したいと考えている人も多い。その場合、よく理解しておかなければならない。これが、今回研究対象にした理由である。まずは「発達障害」について、現状を把握することから始めたい。高校生の私達が、どのように理解しておくべきなのか。当人の人たちと仲良くやっていくにはどうすればよいのか。今の私達が気を付けることは何か。何か手を差し伸べることはできるのか。しかし、これらのことから、差別や偏見などが起こったり、さらに発展して、いじめなどが発生してはいけない。よって、きちんと調べ、きちんと発表すること。	

開始時刻 No.	口頭発表(土曜・午前)Ⅱ号館201教室
9:30	働く女性を支える国づくり: 北欧諸国と比較して 武藤安澄(千里国際高3年)
201 土前 1	日本の女性が働きやすいと感じる国を目指すために日本は何をしたら良いのかについて、世界の男女平等ランキングが毎年上位である北欧の国々と比較して明らかにすることが研究の目的である。かつてはジェンダー平等社会ではなかった北欧の国々の当時の時代背景や克服方法について研究することで、日本が現在抱える問題と比較しながらより実践的な解決策を探る。本研究では、北欧と比較することで、日本の女性が働きやすいと感じる国を目指す際に、重要な鍵となる点を具体的に提示した。
10:00	補助金が太陽光パネルの普及に与える影響 川端壮樹(総政3年; 西立野ゼミ)・藤本ころ・松野萌
201 土前 2	現在日本では、様々なエネルギー問題を抱えている。例えば、化石燃料に頼りすぎていることや、温室効果ガスによる地球温暖化の進行があげられる。これらの問題を解決するための一つの方法として、私たちは再生可能エネルギー、特に住宅用太陽光発電を普及させることが有効なのではないかと考えている。そこで私たちは各市町村が行っている太陽光発電のための公的補助金に着目し、公的補助金が住宅用太陽光発電の普及に与えている影響について分析し、政策提言を行う。
10:30	なくそう！南京町のポイ捨てごみ 施楓花(御影高2年)・奥平愛子・大平落央樹・川島理莉子・小林泰地
201 土前 3	神戸の人気観光スポットとして知られる南京町では、今、観光客によるポイ捨てごみが大きな問題となっており、南京町に店を構えている班員の親戚も頭を抱えています。そのようなポイ捨てごみが止まない南京町の現状をふまえ、「より美しい南京町」を実現させるために私たちは立ち上がりました。しかし、私たちの前には想像をこえる大きな壁が待ち受けていました。多額の清掃費、ごみに関するルールの不徹底、清掃に非協力的な存在…これらの壁を乗り越えるために、高校生として何ができるのでしょうか。具体的な取り組みについて発表します。
11:10	海の町神戸～水害から身を守るために～ 市毛鞠花(御影高2年)・礒江さゆり・韓静宜・桑原慶・水野魁人
201 土前 4	昨年の西日本豪雨・台風21号により、神戸に大きな被害がでました。私たちの研究目的は水害の被害を減らすことです。そこで、避難勧告・避難指示が出ていたにもかかわらず、多数の被害が出たことに注目しました。「避難情報が効力を得ていれば被害が減るはず」という推測のもと、アンケートなどで検証を進めました。しかし、平成31年3月の災害警戒レベル導入で、私たちは新たな切り口を求められることになりました。リアルタイムで状況が変わるこのテーマ。そこに高校生らしい疑問をぶつけ、どうすれば被害を減らせるのかを見つめました。
11:40	豊岡Youthプロジェクト～持続可能な街を目指して～ 全澤敬(総政3年; 村田ゼミ)・横山菜乃・鎌野ゆかり・蓬田直毅・堀本季歩・成田真菜香(近畿大学附属豊岡高)・瀬尾ゆうと・山田歩夢・山田愛佳
201 土前 5	日本では少子高齢化が深刻化しており、特に農村や過疎地でその傾向が顕著に表れている。プロジェクトの対象地としている豊岡では、都市への人口流出が著しい。また、豊岡では若年層の人口が毎年減少しており、2030年にはその人口は1万人を下回ることが予想されている。日本の更なる発展のためには地方の活気が必要とされる今、豊岡市において持続可能な街づくりを推進していくために必要なことは何か。地方創生と国際協力をテーマに豊岡市で施策できる新たなプロジェクトの発案を試みる。

場所	時間帯	自由形式(土曜)
Ⅱ-国際交流コーナー	土 10:00 ～13:00	映像で表現 石川泰地(総政2年)・岡本貴登・近藤理菜・宗田凜花・ヤン・ヒョン・中越陽香・守田茉央・島田拓空也・吉見莉采・西岡佑夏・内藤有希子・赤田未来・森口由伸・加藤英美香 私たちは春学期の行われた授業「メディア制作演習(表現)」を履修したものです。私たちは授業の中で「学生が社会に訴えかける番組の制作」をテーマに六つのチームに分け、その中で、プロデューサー、デザイン、映像、CG、サウンドの役割に分かれ、制作を行いました。それぞれのチームで、一から企画書を作り、実際にアポイントメントを取り、取材先へ取材を行うなどして、動画を編集し、それぞれ10分間の番組を制作しました。完成した6つの番組は。【HOME GROUND～人生のヒントは畑の中に～】【SALA～お母さんたちの食堂～】【キャンパスハラスメント～もしかするとあなたも加害者～】【VEGAN】【ONE ROOF】【あなたはスマホ老眼】です。
Ⅱ-208	土 10:00 ～13:00	ニューカレドニア島～本当に「天国に一番近い島」なのか～ 古橋玲也(総政3年;津田ゼミ)・岡村勇太・湯田健太郎・佐藤ふみ・伊藤茜・中嶋一翔・次井千恵・大岡瞭輔・二宮楓子・北野こゆき・巖キララ・三砂安純・櫻井智内・鶴川裕規 今年度津田ゼミでニューカレドニアに1週間研修に訪れました。そのなかで知ったニューカレドニアという国。日本との戦前からの繋がり。私達は森村桂さんの小説のタイトルである「天国に一番近い島」ということしか知らないのでは無いだろうか。今回のこの展示では私達が感じたニューカレドニアという島の新たな一面をテーマとして映像と写真をメインに展示していきます。
Ⅱ-209	土 10:00 ～13:00	消滅危機言語のアーカイブ～喜界島での研究を通して～ 山本雅(総政3年;今西ゼミ)・杉山冬香・香月希結・若松明日花・大平真奈・松本紀慧・古橋玲也 本発表の目的は、2019年9月に奄美・喜界島で行ったフィールドワークの記録映像を通して、消滅危機言語である喜界語を保存・継承することである。言語は、人間の文化や生活を後世に残すための媒体として重要な役割を担っている。したがって、言語を継承する事は、その母語話者の文化や生活を後世に残す事に繋がると考えられる。また、言語の多様性は人間の多様性そのものであるため、喜界語を継承することは喜界島に住む人々の多様性を残すことに繋がる。本発表では、喜界語母語話者や当該言語の保存に取り組む人々などを記録した映像や音声データのアーカイブ化を目指す。
Ⅱ-213	土 10:00 ～13:00	震災を経験していない私たちに何ができるのか。～震災未経験者に記憶を伝える意味～ 中川侑海(総政3年)・氏家里菜・北野こゆき・春口桃奈・東浦由真・三砂安純 来年1月、私たちは阪神淡路大震災発生から25年を迎える。約2年間に渡る当時の様子が記録されたデジタル媒体をアーカイブする活動と地道なインタビュー取材の中で、私たちが自分自身に問い続けた「震災を経験していない私たちに何ができるのか。」という問いを本展示のテーマとし、様々な表現方法で同世代の学生に震災と震災をきっかけに変わっていく人々の歩みを表現する。阪神淡路大震災節目の年にもう一步被災者に寄り添うことができるように、今、震災を経験していない“あなた”に知っていただきたいと考える。